1　はじめに

健康は、市民全ての共通の願いであり、本市が最も重視している施策の一つです。

しかし、健康というと、一般的に保健・医療の分野という意識が強く、市民や行政の関心もそこに偏りがちでした。

世界保健機関（以下「WHO」）は、急速な都市化により生活環境が目まぐるしく変化する現代社会においては、市民の身体的、精神的、社会的な健康水準を高めるため、都市の環境、教育、経済、まちづくりなど、これまで健康とはあまり関連が無いと考えられていた分野とも連携し、都市そのものの健康を通して市民の健康を目指す「健康都市」を提唱しています。

本市は、「健康は市民全ての共通の願いである」との考えに基づき、平成 15 年に「健康づくりのまちづくり」を市の最重要施策の一つに位置付けました。

そして、平成 16 年 6 月に健康都市連合の設立メンバーとして加盟の承認を受けたことを契機として、平成 17 年 12 月に本市の健康都市施策の基本的な考え方や方向性を示す尾張旭市健康都市プログラム（以下「健康都市プログラム」）を策定し、「健康都市　尾張旭」の実現に向け様々な取組を始めました。また、平成 26 年 3 月には、健康都市プログラムの改訂を行い、さらにその取組を継続・発展しています。

健康都市の取組を効果的に推進するには、これまでに実施してきた取組の検証を行い、時代の変化に合わせてアップデートしていくことが大切です。

このため、本書では平成 16 年度の健康都市連合への加盟承認から令和 4 年度までの期間を中心に、本市の健康都市の取組について検証を行い、これまでの成果、課題、対応等を取りまとめました。

2　本市の人口の変化

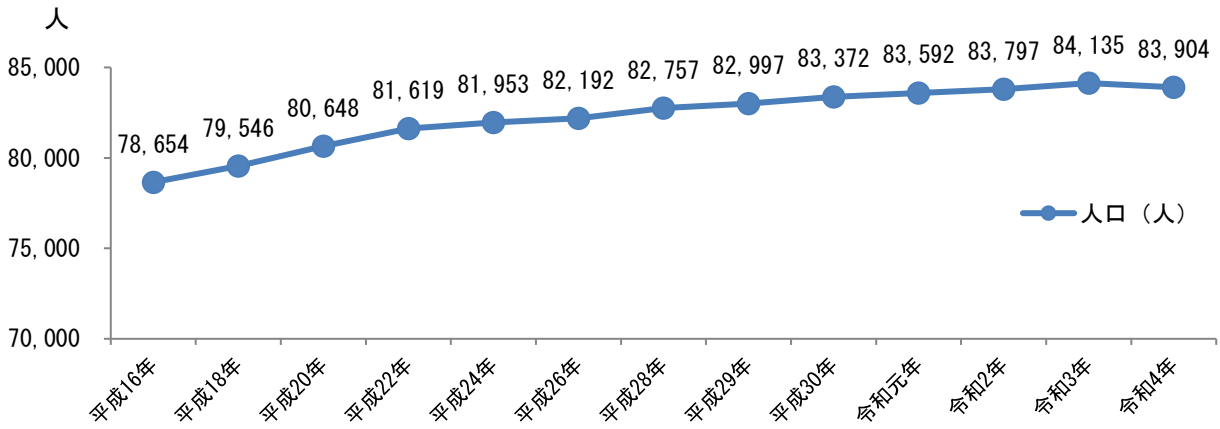
本市のこれまでの健康都市の取組を分析するため、健康都市宣言を行った平成 16 年から令和 3 年度までの人口に関する状況についてまとめました。

(1)　人口・人口動態

本市の人口は、緩やかに増加してきましたが、令和 4 年 3 月に初めて減少に転じました。

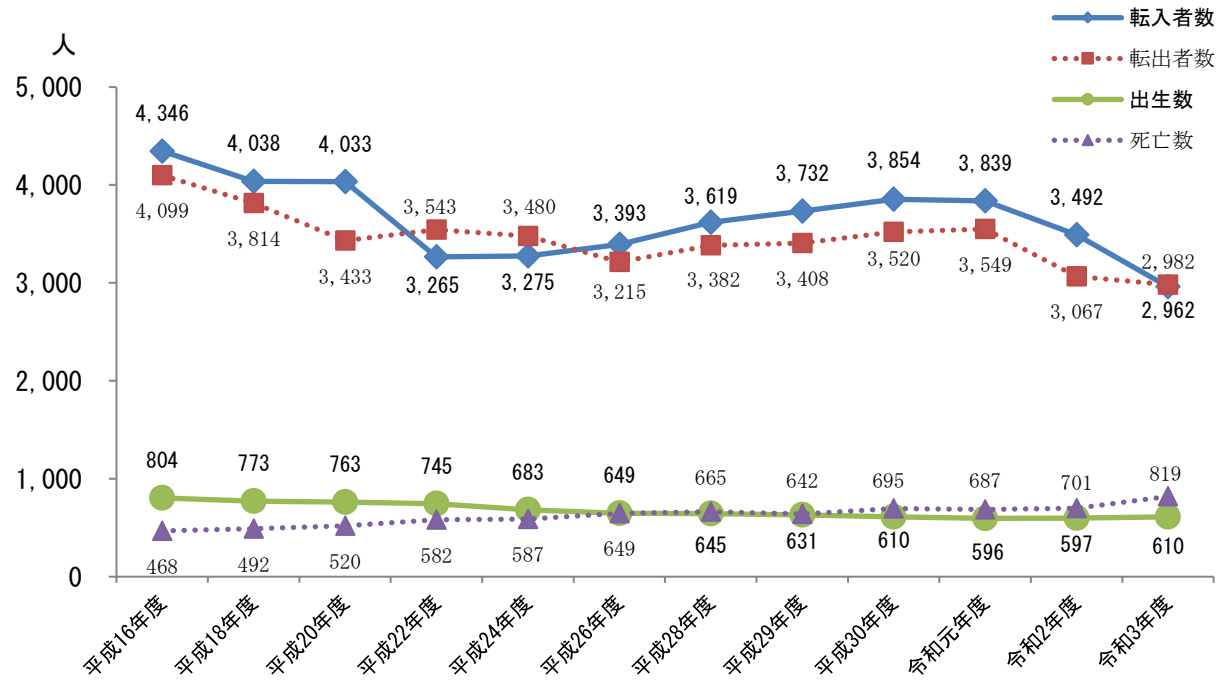
人口動態は、平成 20 年度までは転入者が転出者を上回る社会増が続いていましたが、平成 22 年度、平成 24 年度は社会減、そして再び平成 26 年度以降は社会増となりましたが、令和 3 年は社会減となっています。また、平成 28 年度以降は、出生数が死亡数を下回る自然減が続いており、その差は少しずつ大きくなっています。

ア　人口（各年 3 月末現在）



資料　尾張旭市の統計

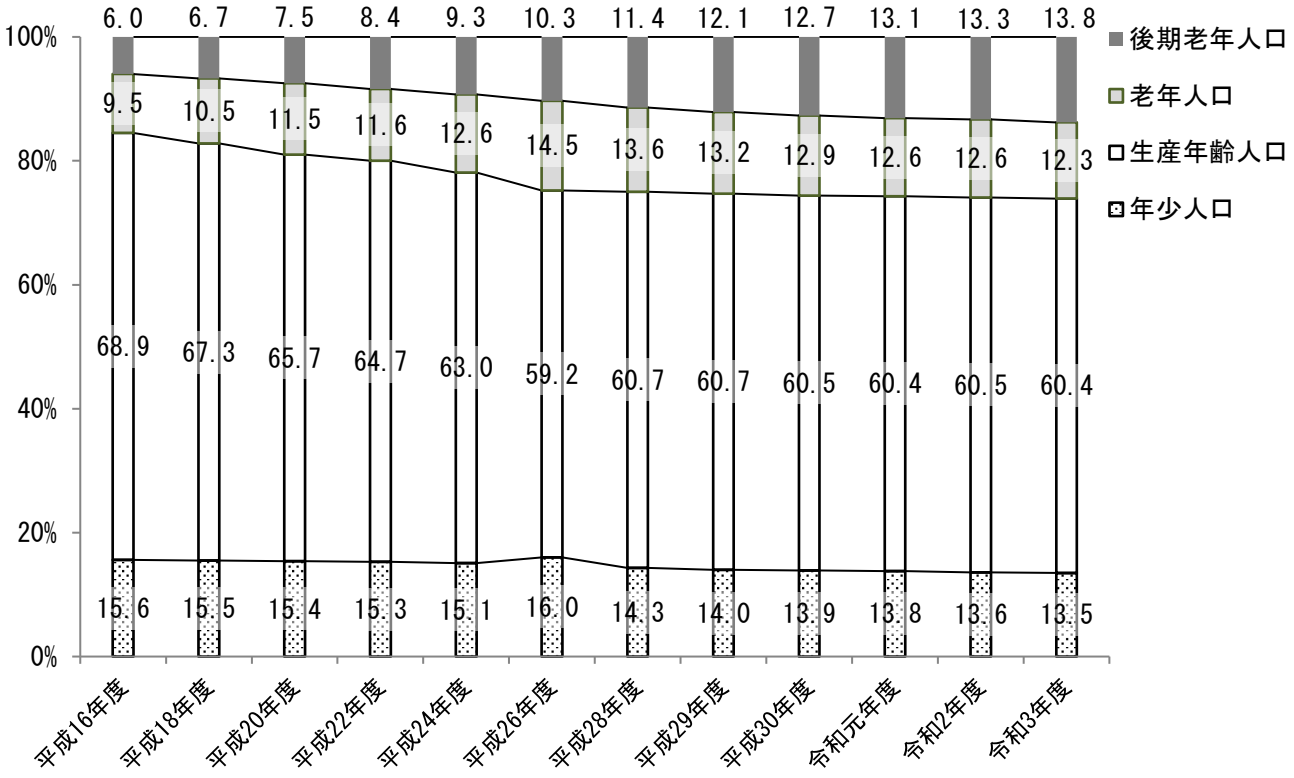
イ　人口動態



資料　尾張旭市の統計

⑵　年齢４区分別の人口割合（各年３月末現在）

本市は、これまで若い年齢層の転入者が多いこともあり、老年人口（65～74 歳）及び後期老年人口（75 歳以上）の割合が比較的低い値で推移してきましたが、平成 24 年度には 65 歳以上の人口の比率が 21.0%を超す超高齢社会に突入し、その後も徐々に増加傾向となっています。また、それに伴い生産年齢人口（15～64 歳）、年少人口（0～14 歳）の割合は、減少傾向で推移しています。

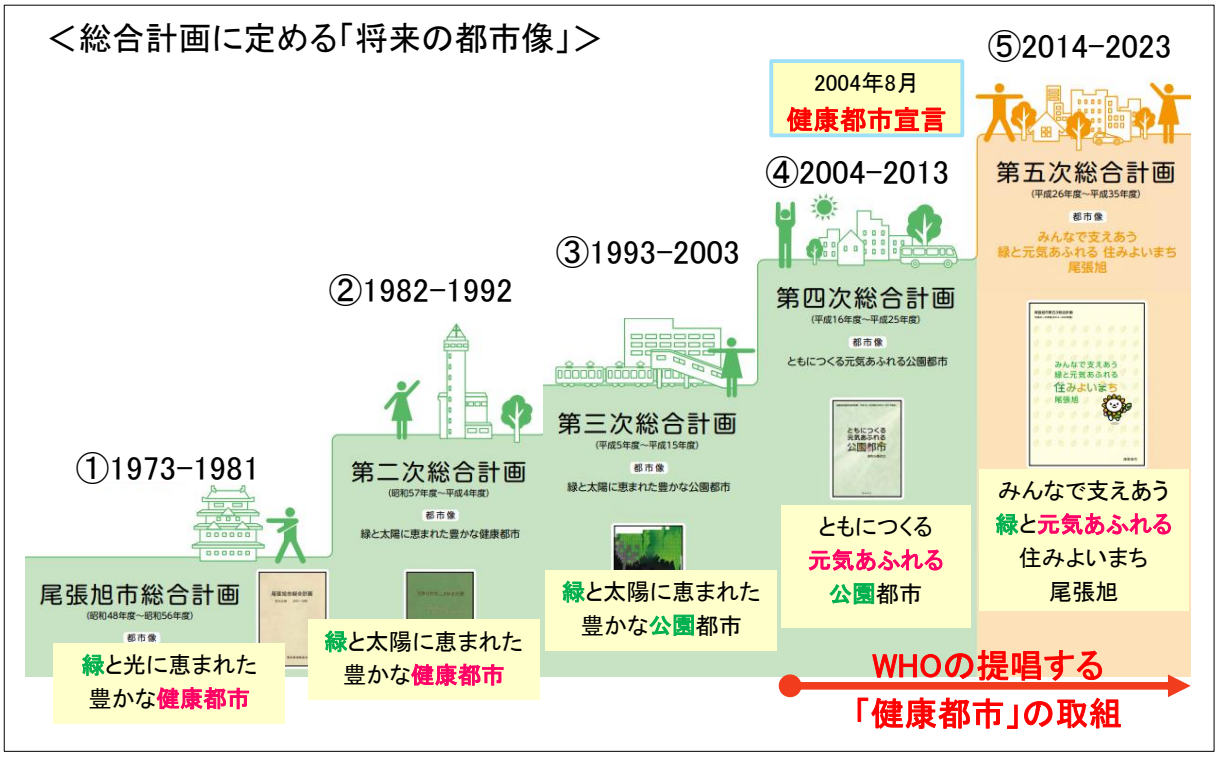


資料　尾張旭市の統計

3　健康都市としての特色ある取組

本市では、市制施行後に策定された総合計画（第一次・第二次）の「将来の都市像」において、「健康都市」を標榜していました。また、WHOの提唱する「健康都市」の取組を開始した時期からは、「元気あふれる」というワードを用いるほか、「まちづくりの進め方」の一つとして「健康都市の取り組みを進めます」と定めています。

本書では、以後、WHOの提唱する「健康都市」の考え方に基づく取組を中心に紹介します。



＜取組一覧＞　括弧付きの番号を付した項目は、以降のページに詳しい説明を記載しています。

年度	全般的取組・健康都市連合関連	主な取組
平成13年度 (2001)		・「元気まる測定」開始…(6)
15年度 (2003)	・「健康づくりのまちづくり」を市の最重要施策の一つに位置付け	
16年度 (2004)	・健康都市連合の設立・加盟…(1) ・「健康都市宣言大会」開催…(2) ・「健康の日」の制定…(3)	・第1回健康づくり推進員養成講座開催…(9) ・市営バス「あさぴ一号」試験運行開始…(11)
17年度 (2005)	・健康都市連合日本支部設立…(4) ・「健康都市プログラム」の策定…(5)	・第1回あさひ健康フェスタ開催…(7) ・「らくらく筋トレ体操」開始…(8) ・「健康づくり推進員会」発足…(9)
19年度 (2007)	・本市で第3回健康都市連合日本支部総会及び大会開催…(4)	・第2回健康づくり推進員養成講座開催…(9)

年度	全般的取組・健康都市連合関連	主な取組
平成20年度 (2008)		・「あさひ健康マイスター事業」開始…⑽ ・市営バス「あさぴ一号」本格運行開始…⑾ ・「朝見武彦健康推進基金」設立（平成24年度終了）…⑿
21年度 (2009)	・健康都市連合日本支部長に就任（平成21年度）…⑷	・「尾張旭市の健康都市づくり～これまでの取り組みのまとめ～」作成…⑸
22年度 (2010)		・市制施行40周年 ・「歩(ほ)っとチャレンジウォーキング」開始…⒀
23年度 (2011)	・健康都市連合日本支部加盟促進部会長に就任（平成23・24年度）…⑷	・第3回健康づくり推進員養成講座開催…⑼ ・おいしい紅茶を提供する店の数（人口一人当たり）が日本一…⒁ ・ＡＥＤ設置施設登録制度開始…⒂
24年度 (2012)		・「紅茶フェスティバル」開催開始…⒁
25年度 (2013)	・健康都市プログラム（改訂版）策定…⑸	・「あたまの元気まる」開始…⑹
26年度 (2014)		・市内のコンビニエンスストア全店にＡＥＤを設置…⒂
27年度 (2015)		・第4回健康づくり推進員養成講座開催…⑼ ・「健康都市　尾張旭の実現に向けて～健康都市10年間の取り組みのまとめ～」作成…⑸
28年度 (2016)	・健康都市連合理事に就任（平成28～令和3年度）…⑴	
29年度 (2017)		・「あさひ健康マイスター事業」を手帳版にリニューアル…⑽
30年度 (2018)		・ＳＤＧｓについて考察し、本格的に取組を開始…⒄
令和元年度 (2019)		・「第70回全国植樹祭」開催…⒃ ・「ウォーキングガイドＡ－ｍａｐ」初版発行…⒀
2年度 (2020)		・市制施行50周年 ・第5回健康づくり推進員養成講座開催…⑼ ・コロナ禍における健康づくりを開始…⒅
3年度 (2021)	・第9回健康都市連合総会・国際大会がオンラインで開催…⑴	
4年度 (2022)		・「元気まる測定」をリニューアル…⑹ ・「健康都市　尾張旭の実現に向けて～これまでの取組のまとめ～」作成…⑸

(1) 健康都市連合（ＡＦＨＣ）

健康都市連合（Alliance for Healthy Cities、略称ＡＦＨＣ）は、日本が所属するWHO西太平洋地域事務局の呼び掛けにより、健康都市のアプローチによって、市民生活の質と健康の向上を目指す都市と関連団体の国際ネットワーク組織として平成15年10月に設立されました。そして、健康都市連合の設立メンバーとして、本市は、平成16年6月に加盟を承認されました。

健康都市連合設立メンバー認定証授与式

健康都市連合には、西太平洋地域の10か国（日本・オーストラリア・カンボジア・中国・韓国・マレーシア・モンゴル・フィリピン・ベトナム・シンガポール）から191都市48団体が加盟しており、日本からは32都市6団体が加盟しています（令和4年6月現在）。

尾張旭市は、平成28年10月から令和3年11月までの約5年間、日本の加盟都市を代表して健康都市連合の「理事」を務め、西太平洋地域の健康都市の取組を先導しました。

＜大会開催地、テーマ、受賞歴等＞

回	開催年	開催地	テーマ	受賞
第1回	平成16年	マレーシア・クチン市	強力なネットワークとコミュニティの権限を通してヘルシーシティをより高い水準へと導く	
第2回	平成18年	中国・蘇州市	グローバル化が進む世界における健康都市	ＡＦＨＣ2賞
第3回	平成20年	日本・市川市	健康で安全な都市社会	ＡＦＨＣ2賞
第4回	平成22年	韓国・ソウル特別市江東（カンナム）区	ユビキタス健康都市	ＡＦＨＣ2賞
第5回	平成24年	オーストラリア・ブリスベン市	健康な都市化―健康な人々とコミュニティ	WHO2賞 ＡＦＨＣ3賞
第6回	平成26年	香港・沙田地区	あらゆる政策に健康の視点を ・高齢者にやさしいまちづくり ・生活習慣病の予防 ・緊急時に備えた健康管理	ＡＨＦＣ3賞
第7回	平成28年	韓国・原州（ウォンジュ）市	わたしたちのまち、わたしたちの健康、わたしたちの未来	WHO1賞 ＡＦＨＣ2賞
第8回	平成30年	マレーシア・クチン市	わたしたちのまち、わたしたちのＳＤＧｓ、わたしたちの歩み	WHO1賞 ＡＦＨＣ2賞
第9回	令和３年度	香港・特別区政府（オンライン）	コロナ禍を越えて、より革新的な健康都市をめざして	ＡＦＨＣ4賞

健康都市連合国際フォーラム（令和元年９月）

健康都市連合理事会の様子

⑵　健康都市宣言

本市は、まち全体で市民の健康を支えていくため、平成 16 年 8 月 1 日に「健康都市宣言大会」を開催し、健康都市宣言を行いました。

この大会では、毎年 4 月 29 日を「尾張旭市　健康の日」と定め、世界基準の健康都市を目指していくことを、国内外に表明しました。

宣言文は次のとおりです。

尾張旭市健康都市宣言（平成 16 年 8 月 1 日宣言）

緑と太陽に恵まれた　わたくしたちのまち尾張旭市は　市民一人ひとりが　心も体も健やかで　いきいきと暮らすことを　永久の願いとし　ここに「健康都市　尾張旭」を宣言します

— **お**おきな夢を持ち　健康はみずから築きます

— **わ**たくしたちは　進んで健康づくりに努めます

— **り**んとした生活から　健康づくりを始めます

— **あ**さひのように　こころ明るく爽やかな生活をおくります

— **さ**んさんと降り注ぐ太陽のように　健康に輝きます

— **ひ**とと人のふれあいを大切に　「健康都市　尾張旭」を目指します

市役所正面玄関「健康都市　尾張旭」看板

⑶ 健康の日（毎年４月29日）

本市では、「尾張旭市健康都市宣言」と同時に、毎年４月29日（祝）を「尾張旭市　健康の日」と定めました（平成16年８月１日制定）。新緑の美しいさわやかなこの時季が、緑あふれる本市のイメージにぴったりで、何より健康づくりを意識するのにふさわしいという、市民からの意見をもとに決定しました。

平成17年度以降は、本市の健康都市づくりーからだ・こころ・まちの健康ーの各種事業を通して、市民の健康意識をさらに高め、市民自ら健康づくりに取り組む機会を提供し、市を挙げて「健康都市」を発信することを目的とするイベント「あさひ健康フェスタ」の開催日となっています。

＜健康都市宣言後から現在までの４月29日（祝）のイベント＞

年度	実施日	開催イベント	同時開催イベント等
H17	4月29日	第1回あさひ健康フェスタ	健康まつり、あさぴースマイルウォーキング
H18	4月29日	第2回あさひ健康フェスタ	健康まつり、あさぴースマイルウォーキング
H19	4月29日	第3回あさひ健康フェスタ	健康まつり、あさぴースマイルウォーキング
H20	4月29日	第4回あさひ健康フェスタ	健康まつり、あさぴースマイルウォーキング
H21	4月29日	第5回あさひ健康フェスタ	健康まつり、あさぴースマイルウォーキング
H22	4月29日	第6回あさひ健康フェスタ	健康まつり、あさぴースマイルウォーキング
H23	4月29日	第7回あさひ健康フェスタ	東日本大震災のため中止
H24	4月29日	第8回あさひ健康フェスタ	健康まつり、あさぴースマイルウォーキング
H25	4月29日	第9回あさひ健康フェスタ	健康まつり、あさぴースマイルウォーキング
H26	4月29日	第10回あさひ健康フェスタ	健康まつり、あさぴースマイルウォーキング
H27	4月29日	第11回あさひ健康フェスタ	健康まつり、あさぴースマイルウォーキング
H28	4月29日	第12回あさひ健康フェスタ	健康まつり、あさぴースマイルウォーキング
H29	4月29日	第13回あさひ健康フェスタ	健康まつり、あさぴースマイルウォーキング
H30	4月29日	第14回あさひ健康フェスタ	健康まつり、あさぴースマイルウォーキング、 まちの健康ひろば、楽農まつり
H31	4月29日	第15回あさひ健康フェスタ	健康まつり、あさぴースマイルウォーキング、 まちの健康ひろば、楽農まつり
R2	4月29日	第16回あさひ健康フェスタ	会場イベントはコロナ禍のため中止 （ホームページで企画を実施）
R3	4月1日～ 5月31日	第17回あさひ健康フェスタ	会場イベントはコロナ禍のため中止 （オンライン企画を実施）
R4	4月29日～ 5月31日	第18回あさひ健康フェスタ	健康まつり、あさぴースマイルウォーキング、 親子フェスタ、音と光り絵コンサート

⑷　健康都市連合日本支部

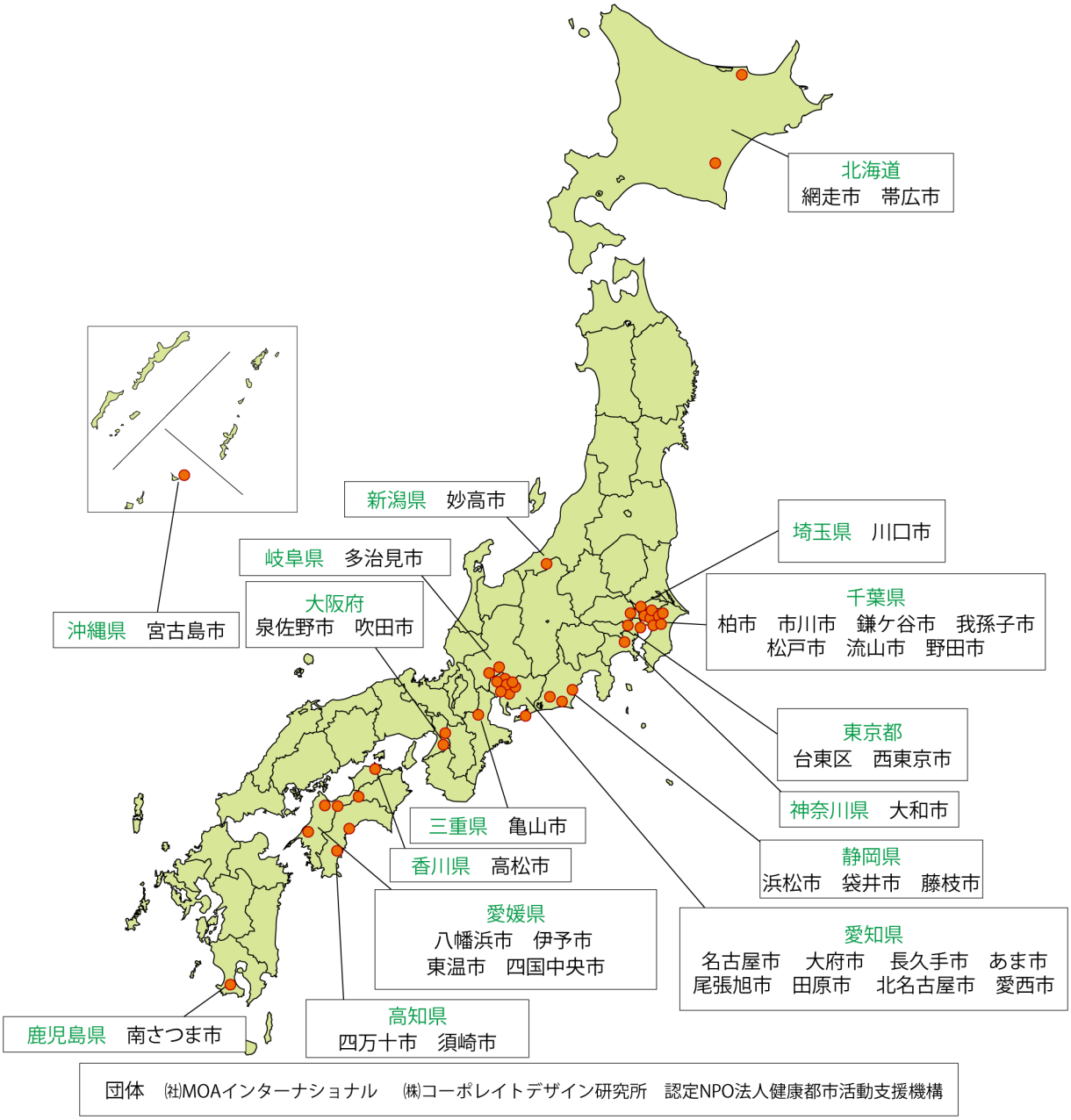
健康都市を日本国内でも広げるため、千葉県市川市、沖縄県平良市（現在の宮古島市）、静岡県袋井市及び本市の４市で、平成17年４月に健康都市連合日本支部を設立しました。

健康都市連合日本支部では、毎年総会・大会を開催し、健康都市に関する情報を広く提供・共有するとともに、健康都市の実現に向けた都市などのネットワークを構築しています。

令和４年８月現在、健康都市連合日本支部には、38都市３団体が加盟しています。

尾張旭市では、平成19年７月に、第３回日本支部総会・大会を開催しました。また、日本支部長を平成21年８月～22年８月の１年間、理事を令和２年７月から務めています。

＜健康都市連合日本支部加盟自治体・団体＞（令和４年８月現在）



⑸　健康都市プログラム

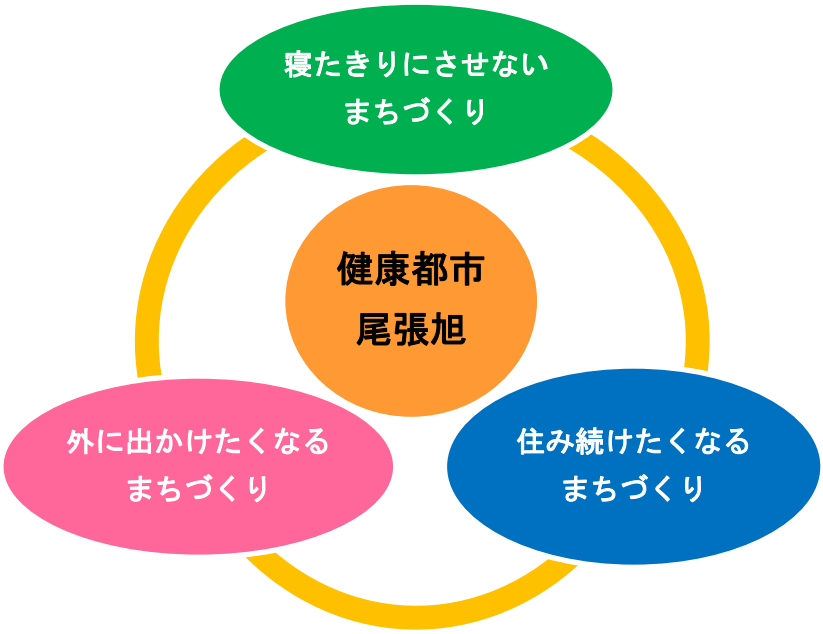
本市は、尾張旭市第四次総合計画（以下「四次総」）の基本構想に基づき、健康都市施策の基本的な考え方や方向性を示す「健康都市プログラム」を平成 17 年 12 月に策定しました。

また、平成 25 年度の四次総計画期間終了を受け、平成 26 年 3 月に策定した尾張旭市第五次総合計画（計画期間：平成 26 年度～令和 5 年度、以下「五次総」）においても、健康都市の取組は「まちづくりの進め方」として継続していくことになりました。このため、健康都市プログラムも五次総との整合性を図るため、健康都市に関する新たな視点と方針を追加した、「健康都市プログラム（改訂版）」を平成 26 年 3 月に策定しました。

健康都市プログラムでは、健康に暮らしている市民だけでなく、健康に不安を持っている市民を含めて、全ての市民がいつまでも元気でいきいきと暮らせるまちの実現を目指し、「寝たきりにさせないまちづくり」、「外に出かけたくなるまちづくり」、「住み続けたくなるまちづくり」の 3 つを施策の方針に掲げています。

なお、「健康都市プログラム（改訂版）」の計画期間が令和 5 年度までとなっているため、次期の健康都市プログラムの策定を計画しています。

＜3 つの施策の方針＞



＜健康都市づくりの振り返りとして取組状況の取りまとめ冊子を作成＞

本市の健康都市づくりを振り返り、その取組を効果的に推進するため、過去に 2 回、取組状況のまとめを冊子形式で作成し、公表しています。

①平成 22 年 3 月『尾張旭市の健康都市づくり～これまでの取り組みのまとめ～』

②平成 28 年 3 月『健康都市　尾張旭の実現に向けて～健康都市 10 年間の取り組みのまとめ～』

これらのまとめでは、健康都市に関連する事業実績と市民意識調査を中心に検証を行い、そこから判明した課題、対応策等についてまとめています。

本書は、こうした経緯を踏まえ、令和 5 年 3 月に 3 回目の取りまとめを行ったものです。

⑹　市民総元気まる事業

本市では、平成13年度から市民が生活習慣の健康度を確認できるように、生活習慣の問診、身長・体重・血圧測定、体力測定等を行い、それらの結果を基に保健師、管理栄養士、歯科衛生士等と一緒に生活習慣病を予防する「元気まる測定」を開始しました。

平成19年度には、総受検者数が1万人を超え、令和3年度までに2万5千人以上の市民が自身の健康を見直すきっかけとして利用しました。

その後、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、年間受検者が減少していたことや、測定機器の刷新を契機として、令和4年度にＩＣＴを活用したシステムを導入し、全面リニューアルを行いました。セルフケア能力の向上を目指し、ライフスタイルアンケートや体組成測定、体力テストの結果から個人プログラムシートを作成します。プログラムシートに基づいて、3か月間自身で取組を継続できるよう、計測機器を地域拠点（元気まるステーション）に設置し、トレーニング機器の開放、応援メールの配信など健康習慣に取り組める仕組みを構築しています。

また、平成18年度から「元気まる測定」の問診項目を簡易化し、インターネットで回答を入力する簡易版の元気まる測定として、「ネットDE元気まる」も実施しており、令和4年3月までに約7,500人が受検しています。

さらに、平成25年度からは、認知症予防対策として、地方自治体で初めて、認知症の前段階とされる軽度認知障がいスクリーニングテスト「あたまの元気まる」を導入し、平成26年度は延べ500人の方が受検し、さらに多くの方に受けていただけるよう、市内公民館等にも出向いて実施しました。令和2年度からは、新型コロナウイルス感染症対策も兼ねてＩＰフォンを利用した電話での受検も可としており、令和5年3月までに延べ約5千人の市民が受検し、自身の健康づくりの一つとして利用しています。

「市民総元気まる事業」は、これらの事業の総称です。

リニューアルした「元気まる測定（からだの元気まる）」

あたまの元気まる

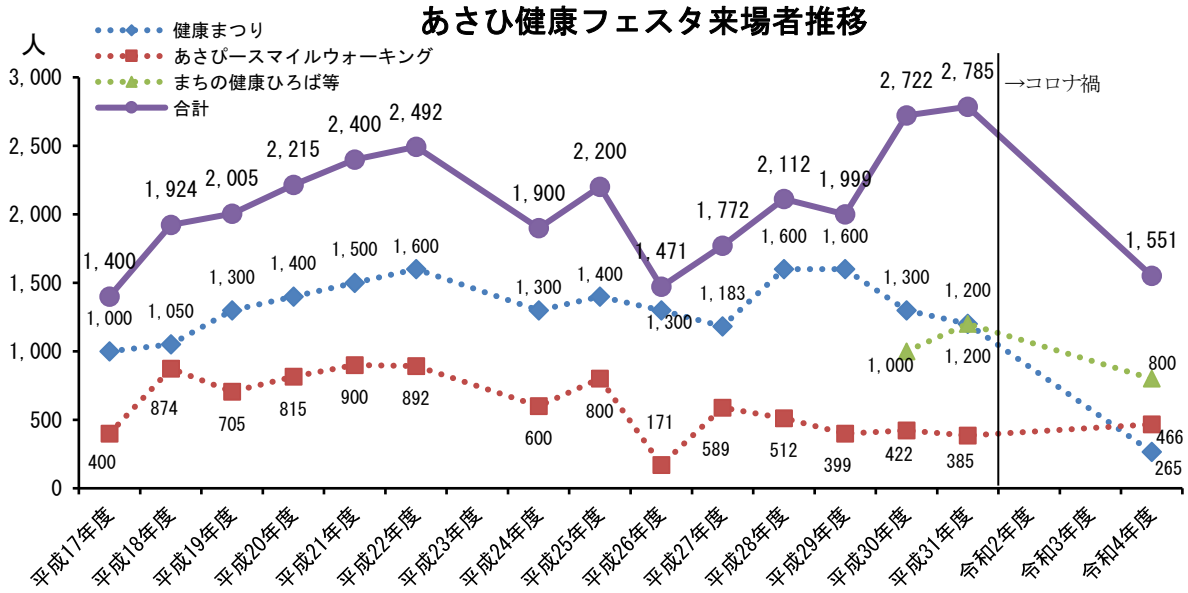
(7) あさひ健康フェスタ

本市では、健康に関する正しい知識の普及と意識の向上を目的に、身体・体力測定、歯科検診などを行う「健康まつり」を平成元年度から開催していましたが、平成16年の健康都市連合加盟を契機に、本市の健康都市の取組を国内外に広くＰＲするため、①これまでの健康まつりの内容は継続し、市各部署が可能な形で参加する、②開催日を「尾張旭市　健康の日」の4月29日にする、③市内を巡る「あさぴースマイルウォーキング」を同日開催する、④愛知県森林公園で4月29日に開催しているイベントと共催・同日開催とし、ウォーキング大会のコースにイベント会場を含める、の4点を柱に見直しを行い、平成17年4月29日に第1回あさひ健康フェスタを保健福祉センターにて開催しました。

あさひ健康フェスタ

以降、平成28年には名古屋産業大学をサテライト会場に、また、平成30年にはＪＡあいち尾東農協の楽農まつりと共催するなど、より多くの市民の方に参加いただけるよう、地域と連携を進めながら継続しています。また、コロナ禍であった令和2・3年はホームページやオンラインイベントでの企画に変更して実施しています。

第1回は、保健・医療分野を中心とした団体と市部署の参加でしたが、回数を重ねるごとに参加団体・部署と来場者が増加し、また市内の企業や大学など産官学の連携も進みました。令和4年の第18回は、コロナ禍のため、より広いスペースで来場者に楽しんでいただけるよう、開催期間を4月29日から5月31日までとし、メインイベント会場をスカイワードあさひに変更して開催しました。現在、「健康都市　尾張旭」を象徴する行事として定着しています。



※平成23年度は、東日本大震災のため中止。また、平成26年度は、雨天のため「あさぴースマイルウォーキング」の一部を中止。
平成30年度から、まちの健康ひろば等を実施。また、令和2・3年度は、新型コロナ感染症対策のためリアルイベントを中止し、ホームページ等のオンライン企画を実施。

資料　健康都市推進室

⑻　らくらく筋トレ体操

市民が健康の維持・増進を図り、将来にわたって自立した日常生活を送ることができるよう、平成 17 年度から市と健康づくり推進員が協働で「らくらく筋トレ体操」の普及を進めています。

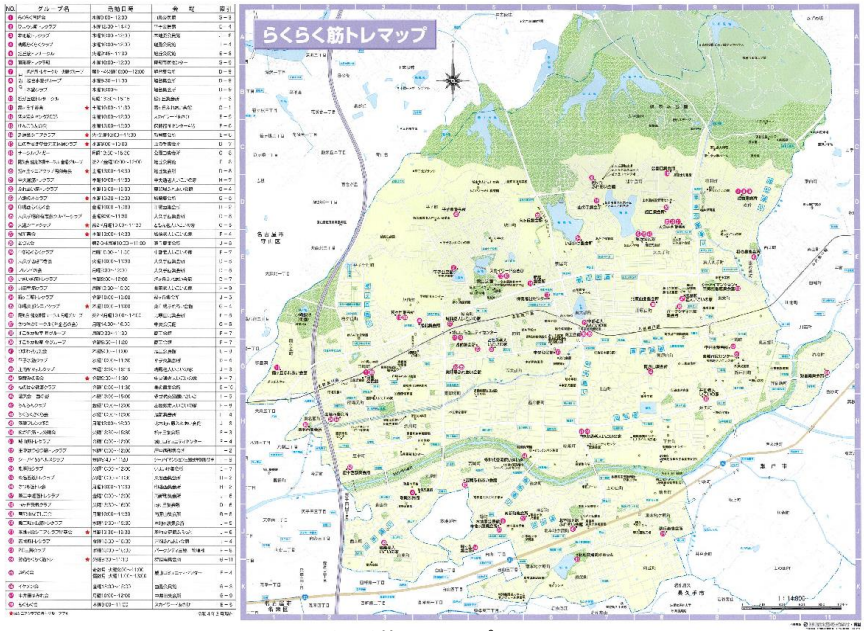
市主催の「らくらく筋トレ教室」修了者が自主的にグループを結成し、健康づくり推進員の指導のもと、市内全域で筋力トレーニングを継続しています。

平成 29 年度には、介護予防・日常生活支援総合事業の地域介護予防活動支援事業の一つに組み込まれ、介護予防事業としても重要な役割を担っています。

令和 2 年度からは、新型コロナウイルス感染症の影響で、自主グループ活動の場となる公共施設の利用が制限されるなど、活動を自粛せざるを得ない期間が度々ありました。そうした状況を受け、活動休止中にも自宅で筋トレを継続できるよう、また、筋トレから心理的に離れることを防ぐため「自宅用らくらく筋トレ体操ＤＶＤ」を作成し、筋トレ参加者や希望者に配布しました。

令和 5 年 2 月末現在、66 自主グループ、1,400 人が健康づくり推進員と共に筋力トレーニングに取り組んでおり、市内各地で活動の輪が広がっています。

らくらく筋トレ体操



らくらく筋トレマップ

⑼ 健康づくりを支える市民団体

ア　健康づくり推進員

地域における健康づくりの担い手を育成するため、「健康づくり推進員養成講座」を平成16年度、平成19年度、平成23年度、平成27年度及び令和2年度に開催し、健康づくりに必要な正しい知識と技術を身につけた講座修了生と市が協働で市民の健康づくりに取り組んでいます。

平成17年度には講座修了生による健康づくり推進員会が発足し、健康づくり推進員自らが「筋力トレーニング（筋トレ)」、「ウォーキング」、「笑いと健康」を活動の3本柱に設定しました。

＜3つの活動の柱＞

①「筋トレ」では、市民が健康の維持・増進を図り、将来にわたって自立した日常生活を送ることができるよう、市が行う筋力トレーニング事業「らくらく筋トレ教室」の支援や教室修了後の自主グループの活動支援を行っています。

②「ウォーキング」では、毎月第一月曜日を定例ウォーキングの日とし、スタート地点を毎回変えて実施しています。事前にコースの選定、下見及び地図の作成を行い、チラシの配布や口コミで参加者を募り、毎回20人程度の市民が参加しています。また、効果的な準備体操を行う工夫を実施しています。なお、新型コロナウイルスの感染予防が必要な時期は、コースを4つに限定し、周回コースで実施しています。

③「笑いと健康」では、講師を招いて講座を開催し、福笑い音頭、みんなで元気に笑う「ワッハッハ体操」などイベントや自主活動グループで披露し、参加者と一緒に楽しみながら、笑いを取り入れた健康体操等の普及を行っています。

令和2年11月には、スポーツ・運動を通じて優れた取組を行っている自治体として「第9回健康寿命をのばそう！アワード（生活習慣病予防分野)」において、「スポーツ庁長官優秀賞」を受賞しました。表彰式は、令和2年11月30日にオンライン形式にて実施され、室伏広治スポーツ庁長官から表彰状が授与されました。

また、上記の3つの活動の柱のほか、養生サークル等の自主活動、健康まつり、市民祭への参加など、令和5年3月現在、27名が精力的に活動しています。

スポーツ庁長官優秀賞受賞

イ　健康づくり食生活改善推進員

「私たちの健康は私たちの手で」をスローガンに平成9年に設立され、食生活を通じて地域に健康づくりを広めています。

主な活動として、健康づくりに関する食生活改善の知識の普及啓発のため、健康づくり教室や離乳食教室などの調理実習のお手伝い、手作りの食育紙芝居による保育園での食育など、食べることの大切さを伝えています。

おやこ料理教室

また、親子での食事づくりを通して料理の楽しさや栄養バランスを学ぶことができるよう、平成9年から「おやこ食育料理教室」を開催しています。食事の楽しさ・大切さを学ぶと同時に、親子の大事なスキンシップの場にもなっています。

さらに、平成18年度から、保育園巡回食育教室に取り組んでいます。「食育紙芝居」では、食べ物を4色に分け、それと同色で手作りした衣類を着て紙芝居をすることで、子どもたちにわかりやすく「食」の大切さを伝えています。

食育紙芝居

ほかにも、市民向けに「レシピの玉手箱」として、市広報誌「広報おわりあさひ」に美味しく食べる工夫をした健康メニューを定期的に紹介しています。

そうした活動により、平成28年度には、栄養関係功労者（食生活改善事業功労者・地区組織）に対する厚生労働大臣表彰を受けました。

令和2年度には、市制50周年記念事業の一環として、コロナ禍でも自宅で食育を学べるよう、「レシピの玉手箱」を題材とした食育絵本「おいしくできたよ」を監修しました。この絵本を通じ、市内の保育園や小学校をはじめ、多くの子どもたちに、料理をすることや家族で一緒に食事をすることの楽しさなどを伝えています。

上記のほか、依頼料理教室、在宅介護食料理教室等の自主事業、健康まつり、市民祭への参加など、令和5年3月現在、27名が精力的に活動しています。

食育絵本

ウ　スポーツ推進委員

市民にスポーツの実技指導を行い、市民のスポーツ活動をサポートすることを目的に活動しています。

主な活動としては、各種団体へのスポーツ推進委員派遣とともに、「ニュースポーツ体験会」、「ウォーキングイベント」、「ラジオ体操講習会」などを開催し、尾張旭市におけるスポーツ推進を行っています。

子どもから高齢者まで、誰でも楽しみながら体を動かすことができる「ニュースポーツ」の普及のため、定期的に体験会を開催しています。体験会では、リズムやバランス能力などを養うコーディネーショントレーニングも取り入れています。

ニュースポーツ体験会

また、多くの方にウォーキングを楽しんでいただけるよう、平成11年度からコース選定に取り組み、スポーツ推進委員が選定したコースを公共施設や駅に掲示するほか、マップを作成・配布しています。スポーツ推進委員が企画・運営を行う「あさひ軽々楽々ウォーキング」では、市内の自然を感じられるコースを毎年選定しています。

あさひ軽々楽々ウォーキング

ほかにも、気軽にできる健康づくりのきっかけとして、ラジオ体操の普及に取り組んでいます。誰もが気軽に始められるだけでなく、正しい動作を身につけることで、より効果的にラジオ体操を行えるように講習会を開催しています。

コロナ禍においては、感染防止対策を行いながらイベントを実施するほか、おうちでできる運動遊びの動画を作成し、子どもから高齢者までが運動をするきっかけづくりができるように取り組むなど、令和5年3月現在、20名が精力的に活動しています。

⑽　あさひ健康マイスター事業

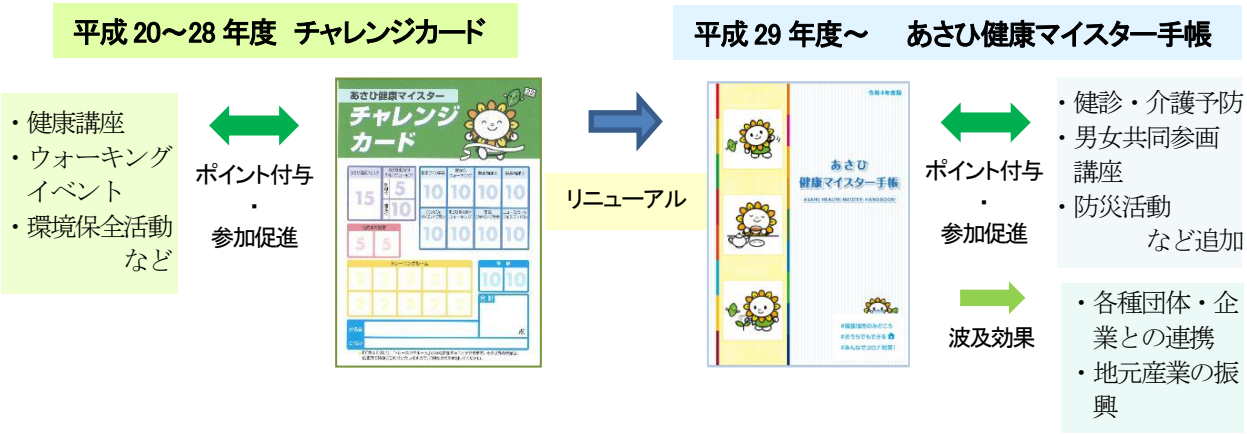
あさひ健康マイスター事業は、多種多様な健康づくりの活動を対象事業として、参加者にポイントを付与し、一定のポイントを獲得した人を表彰する取組で、継続的な楽しい健康づくりのきっかけとなることを目的としています。規定のポイント獲得者には、抽選で市の特産品など健康に関する記念品を、企業等と連携して進呈しています。

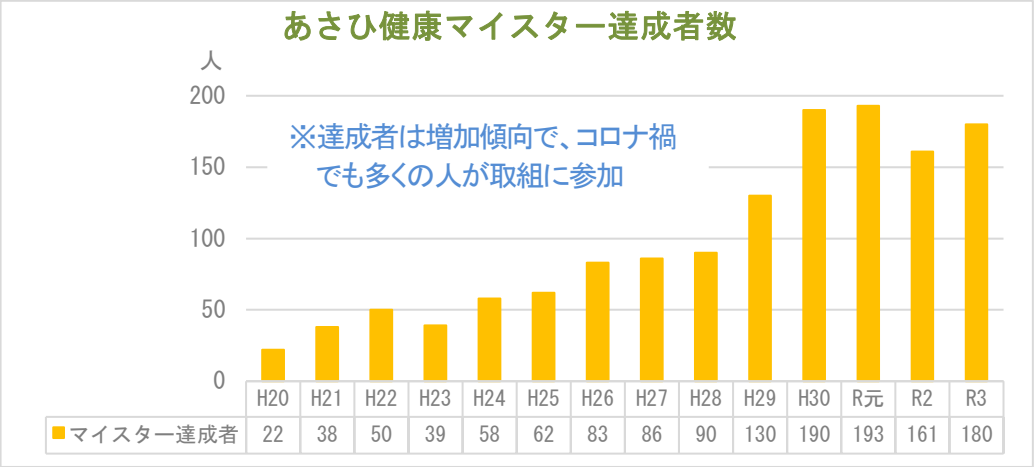
平成 20 年度から、からだの健康づくりやまちの健康づくりである環境保全活動など、12 の対象事業に参加するとポイントが貯まる「チャレンジカード」としてスタートし、平成 29 年度からは「あさひ健康マイスター手帳」に大幅リニューアルしました。令和 4 年度版では、250 以上の「からだ・こころ・まちの健康」に関する事業を対象事業とし、多くの人々が取り組んでいます。対象事業は、市主催事業だけでなく、町内会やボランティア活動なども含まれ、多くの地域、市民団体、企業等と連携して実施しています。

平成 20 年度から令和 3 年度までに表彰された人数は、延べ 1,382 名にのぼるほか、5 年連続受賞者（あさひ健康シルバーマイスター）は 98 名、10 年連続受賞者（あさひ健康ゴールドマイスター）は 34 名と、毎年継続して健康づくりに参加する人が増えています。

令和 2 年度からは、コロナ禍でもおうちでできる健康づくりの取組を追加しました。動画を見ながらの体操や、手帳に掲載しているセルフフレイルチェックなどがポイントになるため、感染拡大によりイベント等が中止になった時期にも、継続的な健康づくりを支えています。

あさひ健康マイスター事業は 17 のＳＤＧｓ全ての目標と関連しており、ＳＤＧｓ達成にも貢献しています。





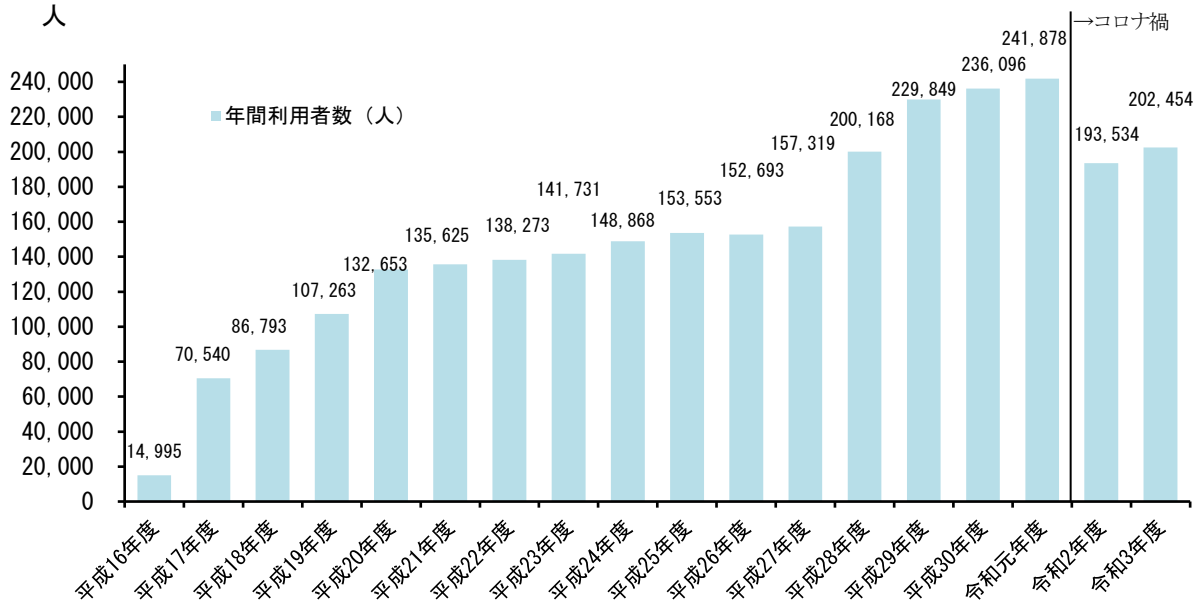
⑾ 市営バス「あさぴ一号」

市営バス「あさぴ一号」は、平成 16 年 12 月に試験運行を、平成 20 年 4 月に本格運行を開始しました。本市では、既存のバス停及び鉄道駅から 500m以上離れた地域を「市内の交通空白地」と定義し、「あさぴ一号」はその解消を目指すとともに、目的地として公共施設、病院、ショッピングセンター、鉄道駅などを結ぶルートを設定し、誰もが気軽に移動できるよう運行しています。

平成 28 年 4 月からは運行内容を変更し、日祝日運行など運行頻度を向上させ、定期乗車券を導入しました。その後も、市民との意見交換、利用者アンケートなどを踏まえて必要な改善を行い、市民と行政が協力して「あさぴ一号」の活性化及び利便性の向上に取り組んでいます。

「あさぴ一号」の利用者は順調に増加し、現在の利用者は年間 20 万人を超え、市民の足として定着しています。

「あさぴ一号」の年間利用者数



※平成 16 年度は 12 月から 3 月までの 4 か月間

資料　都市計画課

⑿　朝見武彦健康推進基金

市内の神社で禰宜（ねぎ）を務められていた故朝見武彦氏の御遺族からの寄付金を基に、市民の健康推進に役立てることを目的とした「朝見武彦健康推進基金」を平成 20 年 7 月に設立しました。

平成 21 年 2 月に市立図書館に「朝見武彦文庫」を設け、平成 20 年度から平成 24 年度までに、医学、食、運動等に関する図書を約 1 万 2 千冊購入しました。

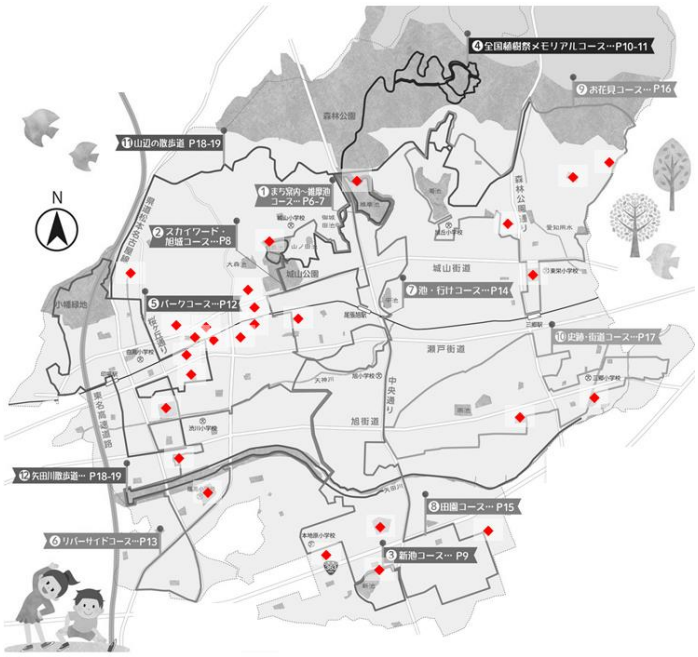
基金終了後も、朝見武彦文庫健康コーナーとして引き続き健康に関する図書の充実を図っています。なお、尾張旭市立図書館、瀬戸市立図書館、長久手市中央図書館、日進市立図書館及び愛知医科大学総合学術情報センターで、図書館連携による健康支援事業「めりーらいん」として、健康に関する図書の紹介や講座等の実施を通して、市民の健康生活を応援しています。

朝見武彦健康推進基金ではその他にも、市内の 11 公園などに 32 基の「健康遊具」を設置しました。その後も健康遊具の増設を進めており、令和 4 年 12 月現在、都市公園を中心として 27 箇所に 68 基の健康遊具を設置しています。種類としては、背中や腰のストレッチができるもの、足、腕、腹筋などの筋力を鍛えるものがあります。

（例　城山公園：長池北側に、腰を伸ばすもの、ぶら下がったりするものなど、5 種類の健康遊具を設置）

朝見武彦文庫

健康遊具



◆健康遊具の設置箇所

⑬ 歩っとチャレンジウォーキング

健康都市プログラムのリーディングプランの一つ「まるごとウォーキングのまち」の実現に向け、市民が健康づくりの第一歩としてウォーキングに取り組めるよう、安心して歩くことができる道路・公園などの整備と、より多くの市民にウォーキングの魅力を実感してもらえるようなウォーキングイベントを開催しています。

そうした中、市制 40 周年記念事業として、魅力的なウォーキングイベントづくりとしてポイント制を取り入れ、1 年間で対象のウォーキングコース巡りとウォーキングイベントに参加して規定ポイントを獲得した方に、完歩賞として記念品を進呈する「歩っとチャレンジウォーキング」を平成 22 年度から実施しています。

ウォーキングコースは、多くの方に市内を楽しくウォーキングしてもらうため、平成 17 年度に従来の 6 コースに加えて尾張旭市スポーツ推進委員の協力を得てコースを追加し、平成 21 年度にウォーキングマップを作成しました。その後、随時コースの見直しを行い、令和元年度には全国植樹祭を記念したメモリアルコース等を追加した「ウォーキングガイドＡ－ｍａｐ（ええまっぷ）」を発行し、現在では 14 のコースを紹介しています。

コースの中には、本市の緑豊かな自然に触れることができるよう、市北部丘陵地の里山風景を巡る「山辺の散歩道」、市中央部を流れる矢田川の水辺風景を楽しむ「矢田川散歩道」もあり、市民団体と協力しながら管理・活用を図っています。

現在では、ポイント対象となるウォーキングイベントに市民団体が主催するイベントを加え、市民と行政が一体となったウォーキングのまちづくりを進めています。

平成 17 年度に健康都市プログラムを策定し、ウォーキングコースを設定

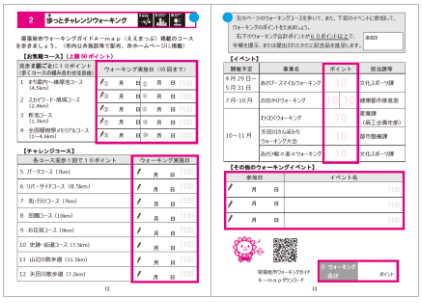
誰でも簡単に実施できるよう、ウォーキングマップを作成

平成 21 年度に携帯型のウォーキングマップを作成し、配布を開始

平成 22 年度「歩っとチャレンジウォーキング」としてチャレンジカードを発行

ウォーキングでのポイント制を開始

令和元年度から「あさひ健康マイスター手帳」でのポイント取得制へ変更



マップからマイスター手帳でポイントをためる形式に変更

⑭　おいしい紅茶のまち

尾張旭市は、平成 23 年 11 月 1 日に、日本紅茶協会※が認定した「おいしい紅茶の店」の人口一人当たりの店舗数が、日本一多い市として初めて認定されました。また、平成 25 年からは、「おいしい紅茶の店」の実店舗数で 3 年連続日本一になりました。

紅茶によるまちおこしは、平成 23 年に尾張旭市観光協会の有志である「尾張旭を日本一にする会」から始まりました。当時の既存店舗の協力を受けて、勉強会を開催したり、メニューを変えたりして挑戦し、結果 14 店舗が認定を取得することとなり、既存の 1 店舗と合わせて 15 店舗となったため、人口比において日本一となりました。

これを受けて、市内では翌年から尾張旭市観光協会が主催で「紅茶フェスティバル in 尾張旭」を開催し、紅茶バザールや紅茶シンポジウムなど紅茶をテーマにした催しを通じて紅茶と尾張旭の魅力を伝えており、令和元年 6 月に開催された全国植樹祭においても「おいしい紅茶のまち」として日本全国に発信しています。

また、コロナ禍の影響を受けた市内を活性化させるため、『旭色（あさひいろ）』として市内事業者による市の魅力を伝える新商品・新メニュー開発プロジェクトを立ち上げ、市の魅力である「紅茶」や「いちじく」を使用、又は「紅茶」に合う新商品やメニューを開発し、令和 3 年 2 日 9 日から販売を開始し、市内外に発信しています。

そのほかにも、ふるさと納税の返礼品化や尾張旭市商工会による紅茶を活用した特産推奨品の開発、県と連携しての紅茶を使った市内グルメ店舗をお得に満喫できるクーポンの作成及び販売など、「おいしい紅茶のまち」を盛り上げるため、様々な取組を通じて、市内外へ尾張旭の魅力を発信しています。

令和 4 年には 3 年ぶりに第 11 回紅茶フェスティバル in 尾張旭を開催し、紅茶バザール、和紅茶カフェ、小中学生を対象とした紅茶検定等を催しました。

なお、令和 4 年 11 月 1 日現在では、市内 13 店舗が「おいしい紅茶の店」として認定されており、人口一人当たりの「おいしい紅茶の店」実店舗数が日本一となっています。

まち全体を元気にする「おいしい紅茶日本一のまち　尾張旭」の取組は、健康都市のまちづくりにおいても大変大きな価値を持つものと期待されています。

認定証

愛知県尾張旭市 殿

日本紅茶協会認定
「おいしい紅茶の店」
店舗数 日本一
（人口1人当り）

愛知県尾張旭市を平成23年11月1日現在
日本紅茶協会認定の「おいしい紅茶の店」
が日本一多い市として認定致します

2011年11月1日

日本紅茶協会

※「日本紅茶協会」昭和 14 年に設立された日本で唯一の紅茶の業界団体

⑮　ＡＥＤの設置・利用推進

心室細動を原因とする心臓停止傷病者の場合、除細動の実施が１分遅れる毎に傷病者の生存退院率は、7～10%ずつ低下します。また、5 分以内にＡＥＤ（自動体外式除細動器）によって心室細動が取り除かれると１か月後の生存退院率は、約 50%といわれており、ＡＥＤの使用が遅れるほどその確率は下がっていきます。

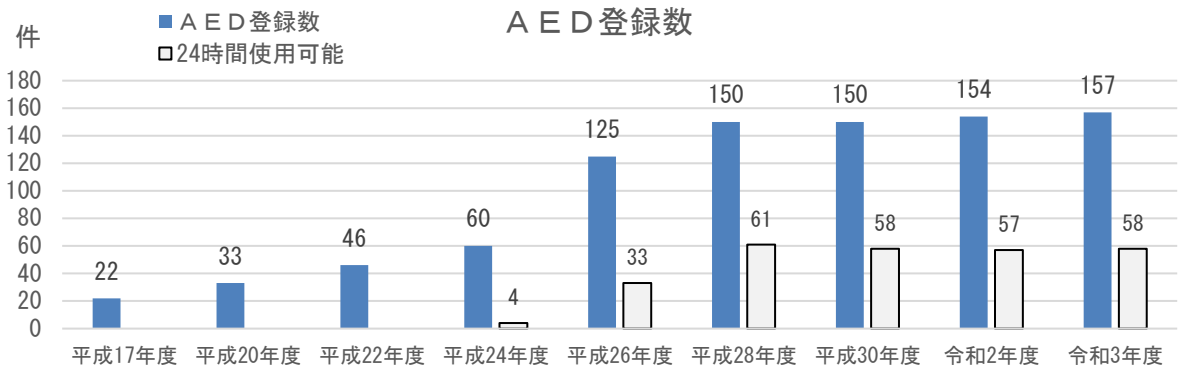
本市では、公共施設からＡＥＤの設置を開始しましたが、それらが有効に活用され、身近に使用できるＡＥＤを増やすことを目的に、平成 24 年１月から、ＡＥＤの貸出・登録・管理支援といった３つの取組を基本とする「あさひＡＥＤサポート事業」を進めてきました。この事業は、市内で開催するイベントなどでのＡＥＤの無料貸出を行うほか、市内の企業や病院など民間事業者が所有するＡＥＤを登録し、公共施設のＡＥＤと共に地域のＡＥＤとして活用するものです。また、登録施設のＡＥＤ設置場所と利用可能日時を、ホームページや市広報などで周知するとともに、119 番通報の際にＡＥＤが必要な場合には、近くの利用可能なＡＥＤを活用するように案内しています。

コンビニエンスストアに設置されているＡＥＤ

また、平成 26 年４月には 24 時間いつでもＡＥＤを使用できる環境を整えるため、市内にコンビニエンスストアを展開する全ての事業者と協定を締結し、同年５月から市内のコンビニエンスストア全店にＡＥＤを設置しています。さらに、平成 28 年６月にはいつでもＡＥＤが使える環境づくりとして一部の公共施設においてＡＥＤの屋外設置を実施するなど、整備を進めてきました。

平成 28 年度から消防職員及び消防団員による、スマートフォンアプリを活用した救命支援システムを開始し、平成 30 年度には対象を市民にも広げ、同システムにおける救命ボランティア数の拡大に向けた取組を実施しています。

令和４年３月現在、誰でも使える市内のＡＥＤ設置箇所は、平成 17 年の 22 箇所から 157 箇所に増加し、24 時間いつでも使用できるＡＥＤも 58 箇所に増加しています。



⑯　全国植樹祭の開催

令和元年６月２日、市内にある愛知県森林公園で、第70回全国植樹祭（以下「全国植樹祭」）が開催されました。愛知県森林公園の存在は、健康都市の推進に非常に大きな役割を果たしてきましたが、全国植樹祭の開催を経て、その価値と影響力がさらに高まっています。

全国植樹祭は、「木に託す　もり・まち・人の　あす・未来」を大会テーマとし、愛知県では40年ぶり２回目の開催、また令和初という記念すべき年の開催ということで、市民が一丸となって開催前から様々な関連行事に取り組みました。

開催１年前には、愛知県森林公園内にてカウントダウンボードを設置し、除幕式やステージイベント、植樹イベントなど市民参加の様々な催しを実施して全国植樹祭の開催機運を盛り上げつつ、200日前には旭城一帯をライトアップする「みどりとひかりのハーモニー」、100日前には市民の絵画作品1,481枚を組み合わせたモザイクアートの看板を作成しました。

そのほかにも、全国植樹材シンボル「木製地球儀」の市町村リレー、全国植樹祭あさひサポーター、みどりの少年団、関連イベントのＰＲ活動、横断幕・懸垂幕の設置等で開催の周知を図りました。

また、おもてなしの一つとして会場周辺に街頭旗を設置するほか、市内の駅ロータリー周辺に市民が作成した飾花プランターや愛知県産木材の木製プランターカバーが設置され、その他の地域にも沢山の緑や花が飾られ、市内外を含む大変多くの方々の楽しみや憩いとなりました。

当日には、天皇皇后両陛下がスカイワードあさひを訪問、市内を一望され、全国植樹祭会場までの一般奉送迎箇所では沿道の市民が国旗の小旗を振って奉送迎を実施しました。

メイン会場では、天皇皇后両陛下に御臨席を仰ぎ、お手植え（スギ・シデコブシほか４種）・お手播き（ヒノキ・ハナノキほか２種）やお言葉をいただきました。

会場では、愛知県産木材をふんだんに使用したお野立所や招待者席が造られ、併せてお手播き箱、おもてなし広場の机や椅子、ベンチ、プランターカバー等も作成し、木材の利用を架け橋とした森林づくりや都市づくりの重要性をアピールしました。

当日は15,000人を超える方が参加され、招待者には市の記念品を贈り、尾張旭市の特産品をＰＲするほか、市の魅力のひとつである紅茶によるおもてなしを実施しました。

そして現在は、全国植樹祭開催をまちのレガシー（社会的遺産）として受け継いでいくため、周年記念イベントの実施、記念パネルの展示、花咲くまちづくり助成金の新設など全国植樹祭理念継承事業として市民・行政・関連団体が一丸となり、緑化活動や木材利用を進めています。

天皇皇后両陛下によるお手植え

全国植樹祭の様子

⑰　ＳＤＧｓの推進

平成 28 年 11 月にWHO主催「第 9 回ヘルスプロモーションに関する世界会議」において「持続可能な開発のための 2030 アジェンダにおけるヘルスプロモーションに関する上海宣言」が採択されたことを受け、本市では、ＳＤＧｓに関する情報収集等に着手しました。平成 30 年度には、五次総や健康都市プログラムの考え方がＳＤＧｓの特徴に共通すること、健康都市の事業が幅広くＳＤＧｓと関連していることを考察しました。

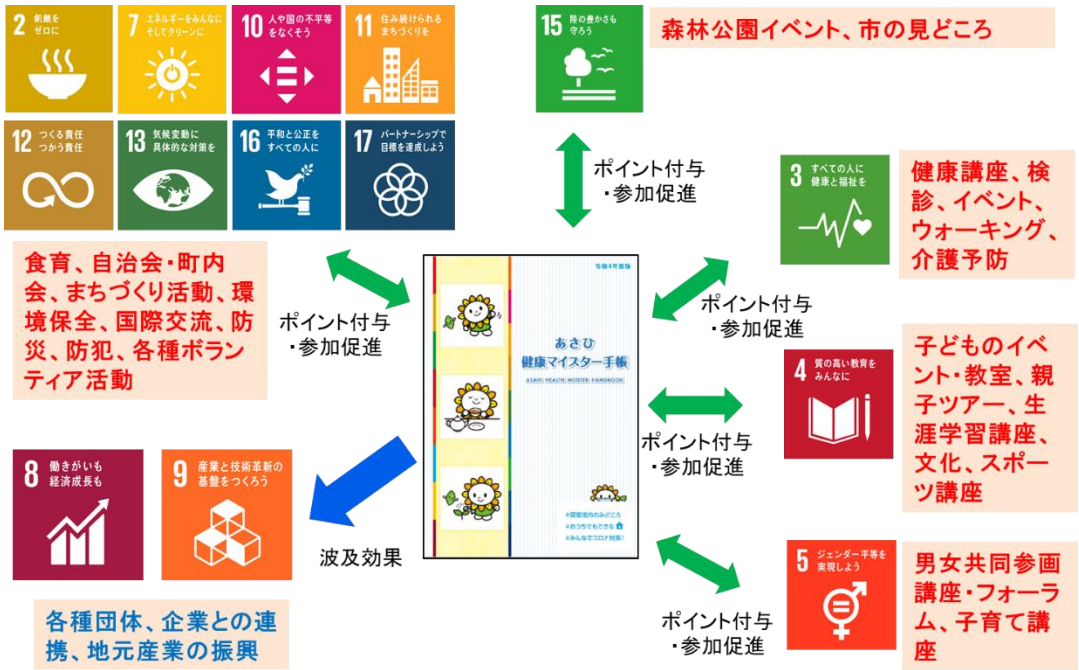
＜五次総・健康都市プログラムとＳＤＧｓの関係（考察）＞

☆ＳＤＧｓの１７の目標は、総合計画・健康都市プログラムと幅広く関連する。

第五次総合計画	健康都市プログラム	SDGs
みんなで支えあう 緑と元気あふれる 住みよいまち 尾張旭	寝たきりにさせないまちづくり 外に出かけたくなるまちづくり 住み続けたくなるまちづくり 健康都市の推進とPR	SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
政策 1 保健・医療・福祉 みんなで支えあう健康のまちづくり	47　31　4	1 3 4 16 17
政策 2 教育・生涯学習 豊かな心と知性を育むまちづくり	42　4	1 4 5 17
政策 3 都市基盤 快適な生活を支えるまちづくり	6　14	3 6 11 14 17
政策 4 安全安心 安全で安心なまちづくり	3　6　19	3 16 17
政策 5 自然環境 環境と調和したまちづくり	1　1　18	3 6 7 9 11 12 13 14 15 17
政策 6 産業振興 活力あふれるまちづくり	2　2	2 4 8 9 17
政策 7 市民生活 人と人とがふれあうまちづくり	1　9	4 5 8 10 11 17
政策 8 行財政運営 分野横断的なまちづくりと市政運営	6	5 16 17

※数値は総合計画と関連付けた主な事務事業数

＜あさひ健康マイスター事業とＳＤＧｓの関係（考察）＞



そして、ＳＤＧｓを推進するため、平成 30 年度にＳＤＧｓの認知度に関するアンケートを市民へ実施したところ、「全く知らなかった」と回答した方が８割程度であったため、認知度向上を目的に、平成 30 年度から様々な周知・啓発を実施しています。

市民や職員等へのＳＤＧｓの理解促進に努めた結果、ＳＤＧｓは急速に社会に浸透し、「ＳＤＧｓを全く知らなかった」と回答した方は、令和３年度には１割程度まで減少しています。

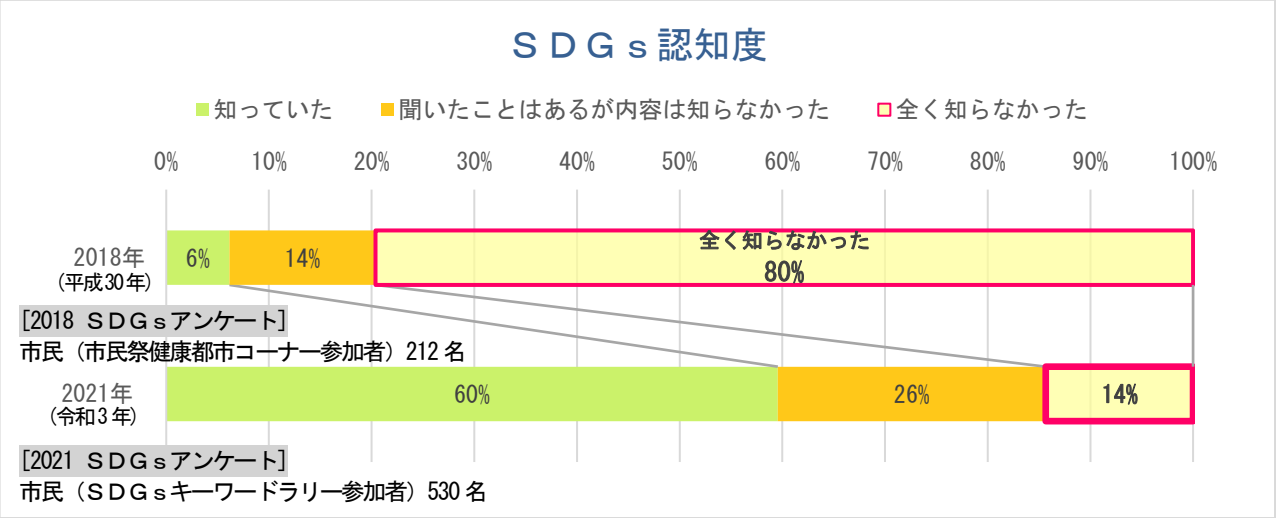
今後も健康都市の取組とＳＤＧｓの目標達成を関連付け、取組を推進していきます。

年度	主な実施内容
平成30年度～	市広報等による周知
	健康都市推進室職員による職員研修の実施（H30・R1）
平成31年度（令和元年度）～	あさひ健康フェスタ ・「健康都市」と「SDGs」をテーマに実施 ・SDGsに関するスタンプラリーやクイズ、「わたしのSDGs宣言※1」等を実施（H31）
	あさひ健康マイスター ・手帳でSDGsについて周知（R1）
	イトーヨーカドー尾張旭店「あさぴーとハトソンくんの出会いの広場」での継続的な周知
	㈱イトーヨーカ堂と連携した職員研修の実施（R1）
	国際連合地域開発センターの協力によるSDGsカードゲームを使用した職員研修の実施（R1）
令和2年度～	リコージャパン㈱※2と連携した職員研修の実施（R2）
	職員同士で行うSDGs勉強会の実施（R2・R3）

年度	主な実施内容
令和2年度～	あさひ健康マイスター ・「わたしのSDGs宣言」を対象事業に追加 ・手帳内部に各対象事業と関係する主なSDGsのロゴを表示 ・手帳裏表紙に身近にできるSDGs達成への取組を表示
令和3年度～	あさひ健康フェスタ ・SDGsクイズ（特設サイト）（R3） ・SDGsキーワードラリー（R3） ・健康都市・SDGs展
令和4年度	市民祭 ・SDGs間違い探し
	あいち市町村フェア ・SDGsクイズ

※1：SDGs達成に向けて自分ができることを考える機会となるよう実施

※2：令和2年度に市と「働き方改革及びSDGsの推進に関する連携協定」を締結



H31.4 あさひ健康フェスタ

R1.7 職員研修（SDGsカードゲーム）

R2～ あさひ健康マイスター手帳 裏表紙

⑱　コロナ禍の取組

新型コロナウイルス感染症は、令和２年１月に日本国内で初の陽性者が確認され、WHOが緊急事態を宣言、また、同年３月に「パンデミック」に認定されました。全国の小中学校、高等学校が臨時休校し、様々な施設の利用休止、イベントの自粛といった措置が取られました。これにより、令和２年度以降、健康都市の取組は、大きく影響を受けることとなりました。

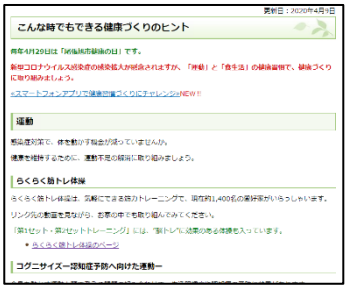
本稿の作成時点（令和５年３月）において、新型コロナウイルス感染症は、まだ終息していません。特に大きな影響を受けた令和2～4年度の健康都市関連事業の取組を紹介します。

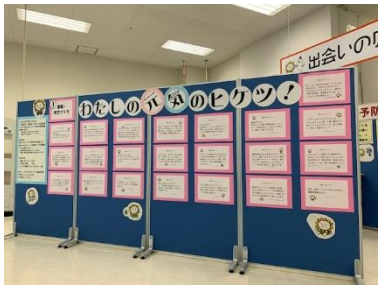
＜中止・延期となった事業＞

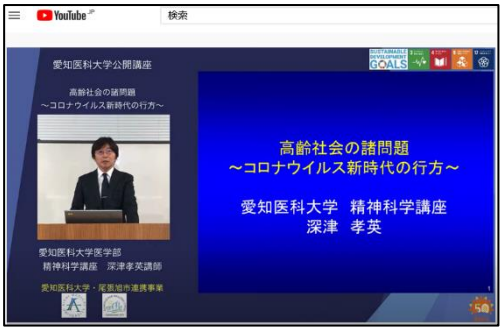
・第16回あさひ健康フェスタ（令和２年度）
・健康都市連合日本支部総会・大会（令和２・３年度）
・市民祭健康都市コーナー（令和２・３年度）
・健康都市連合理事会及び第９回健康都市連合国際大会・総会の延期（令和２年度）
・ウォーキングイベント（令和２年度）

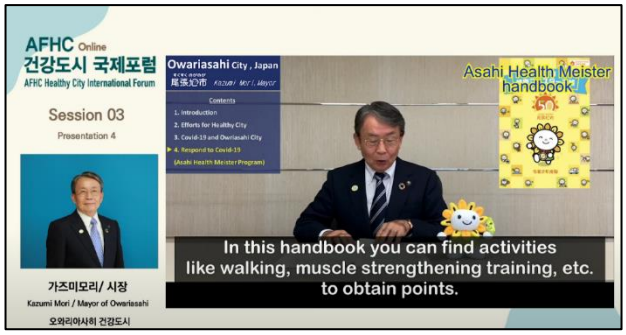
＜新たな取組・代替措置＞

・市ホームページに「こんな時でもできる健康づくりのヒント」掲載（令和２年４月～）
　らくらく筋トレ体操、コグニサイズ等の動画を掲載
・あさひ健康マイスター事業に「おうちでマイスター」を追加（令和２年度版～）
・アプリ版「あさひ健康マイスター」の開始（令和２年度試行・令和３年度本格実施）
・ウォーキングガイドＡ－ｍａｐの作成及びウォーキングの奨励（令和２年度～）
・「わたしの元気のヒケツ」の募集・周知（令和２年度）
・「健康都市オンラインセミナー」の開講・リモート参加（令和２年度～）
・「健康都市連合オンライン国際フォーラム」の開催・尾張旭市長発表（令和２年度）
・「愛知医科大学連携公開講座」のオンライン開講（令和２年度～）
・「あさひ冬のわくわく祭り」で維摩池お出かけウォーキングを実施（令和２年度）









・「健康都市に関する懇談会」の書面開催（令和３年度）
・あさひ健康フェスタの期間拡大開催及びオンラインイベントの充実（令和３年度～）
・「ＣＯＶＩＤ－19 パンデミックにおける社会的処方」国際フォーラム（台湾）にリモート参加
・第９回健康都市連合国際大会・総会にリモート参加（令和３年 11 月）

令和３年 11 月の第９回健康都市連合国際大会は、「コロナ禍を越えて、より革新的な健康都市をめざして」をテーマに開催され、加盟都市がコロナ禍の取組の発表を行ったほか、論文にまとめて提出しました。本市においては、次の論文で表彰を受けています。

『新型コロナワクチンの接種におけるリスクコミュニケーション』

尾張旭市内には、身近に多くの診療所が存在しており、かかりつけ医での「個別接種」を中心としたワクチン接種体制を構築することができ、適切なコミュニケーションを図るより、国内他地域と比較して迅速に接種を進めることができたことをまとめました。

『「都市開発と緑」、「ウォーキング」をキーワードとしたコロナ禍での応用例』

尾張旭市が進めてきた都市開発や緑の保全、ウォーキングの取組は、コロナ禍の市民の健康保持・増進に大きな役割を果たしたことをまとめました。

第９回健康都市連合国際大会（香港）

オンラインでの参加の様子

第９回健康都市連合国際大会の表彰盾

また、令和３年 11 月、健康都市連合の内部組織として新たに設けられた「学術委員会」では、「新型コロナウイルス感染症に対応するためのリスクマネジメント」や、「多分野の連携」等について研究が進められており、本市の新型コロナワクチンの接種の事例は、この委員会が取りまとめる「リスクコミュニケーションガイドライン」で紹介されることとなりました。

コロナ禍の経験は、今後の健康都市の推進に大きな影響があると考えられるため、適切に点検・評価を行い、今後の取組に反映していきます。

4　健康都市の取組の発信と評価

平成 16 年の第１回から原則隔年で開催されている健康都市連合国際大会では、世界で推進されている健康都市の取組をまとめたレポートを、毎回様々なテーマにおいて募集し、優れた取組を表彰する制度があります。

本市は第２回大会以降、全ての大会でレポートを提出し、WHO及び健康都市連合から表彰を受けており、これまでの表彰数は、日本国内で最も多く、また、平成 18 年から８回連続で表彰を受けているのは、国内唯一となっています。

その結果、国内の都市はもちろん、海外からの視察も受けるようになり、大都市近郊の健康都市の優良モデルの一つとして、本市の健康都市の取組を国内外に積極的に発信しています。

(1)　健康都市連合国際大会・日本支部大会への参加・発表

ア　健康都市連合国際大会

第２回以降毎回、西太平洋地域に対して本市の取組を英語で発表しています。

開催年度	大会・開催地	発表区分	発表題名
H16 (2004)	第1回（10/12～14） マレーシア・クチン市	―	―
H18 (2006)	第2回(10/28～30) 中国・蘇州市	市長サミット	本市の健康都市づくりの理念
		学術交換会	「元気まる測定」の取組について
H20 (2008)	第3回(10/23～26) 日本・市川市	分科会	健康都市連合日本支部の活動について
		分科会	日本支部活動の推進
		分科会	高齢者の体力面での健康増進プログラムの効果 （筋力トレーニング）
H22 (2010)	第4回(10/26～29) 韓国・ソウル特別市 江南（カンナム）区	市長サミット	本市の健康都市づくりについて
		市長ミーティング	健康都市連合日本支部の活動報告
		分科会	健康都市づくりの取組について
H24 (2012)	第5回(10/24～26) オーストラリア・ ブリスベン市	基調パネル	市営バス「あさぴー号」について
		分科会	「まるごとウォーキングのまちづくり」の取組について
H26 (2014)	第6回(10/29～31) 香港・沙田地区	基調講演後の 全体会議	東日本大震災から教訓を得た大地震に備えた実践的な防災訓練の実施
		分科会	あさひ健康フェスタを通して見た健康都市連合加盟１０年の歩みと総合計画の策定
H28 (2016)	第7回(10/29～31) 韓国・原州（ウォンジュ）市	市長討論会	市民団体や民間企業との連携による市民の運動習慣向上について
		分科会	子どもの食育の取組について
		分科会	災害に強いまちづくりのための民間企業との連携
H29 (2017)	国際フォーラム	理事発表	生活習慣病予防と管理について
H30 (2018)	第8回(10/17～19) マレーシア・クチン市	市長フォーラム	健康都市プログラム及び具体的な取組とＳＤＧｓの関係
		分科会	ごみ減量の推進による持続可能なまちづくり
		分科会	駅前再開発における住民が主役のまちづくり
R3 (2021)	第9回(11/3～5) 香港・特別区政府 （オンライン）	市長フォーラム	経済と健康のバランスの先にある健康都市の再構築
		分科会	ＳＤＧｓの認知度向上と行動の一歩に向けた尾張旭市の取組

イ　健康都市連合日本支部大会

次のとおり、日本国内の加盟都市に対して本市の取組を発表しています。

開催年度	大会・開催地	発表題名等
H17 (2005)	第1回（7/14・15） 千葉県市川市	健康都市の取組事例発表 「尾張旭市まるごとウォーキング」
H18 (2006)	第2回（7/20・21） 千葉県市川市	パネルディスカッション 「基盤整備でまちづくり（組合施行による土地区画整理事業）」
H19 (2007)	第3回（7/3・4） 愛知県尾張旭市	健康都市の取組事例発表 ・健康づくり推進員会「健康づくり推進員の活動～３年間の歩み～」 ・矢田川に親しむ会「ボランティア活動と健康づくり」
H20 (2008)	第4回（7/2・3） 岐阜県多治見市	健康都市の取組事例発表 尾張旭シニアクラブ平子おもと会「寝たきり・認知症予防のために私たちが実践していること～シニアクラブ平子おもと会の取り組みについて～」
H21 (2009)	第5回（8/5・6） 愛知県大府市	―
H22 (2010)	第6回（8/3・4） 静岡県袋井市	パネルディスカッション 「尾張旭市の健康づくり～これまでの取り組みのまとめと評価～」
H23 (2011)	第7回（8/2・3） 愛知県名古屋市	―
H24 (2012)	第8回（8/7・8） 神奈川県大和市	―
H25 (2013)	第9回（7/30・31） 愛知県北名古屋市	―
H26 (2014)	第10回（7/29・30） 千葉県我孫子市・柏市共同開催	―
H27 (2015)	第11回（7/28・29） 愛媛県八幡浜市	―
H28 (2016)	第12回（7/26・27） 千葉県流山市	パネルディスカッション 「健康を育てるまちづくり」に市長がパネラーとして参加 ※展示ブースに本市の紹介パネルを出展
H29 (2017)	第13回（7/4・5） 北海道網走市	※展示ブースに本市の紹介パネルを出展
H30 (2018)	第14回（7/19・20） 千葉県松戸市	加盟都市実践報告 「本市の取組とＳＤＧｓ」 ※展示ブースに本市の紹介パネルを出展
R1 (2019)	第15回（7/19・20） 香川県高松市	※展示ブースに本市の紹介パネルを出展
R2 (2020)	第16回はコロナ禍で中止 （総会のみ書面開催）	―
R3 (2021)	第17回はコロナ禍で中止 （総会のみ書面開催）	―
R4 (2022)	第18回（11/24） 大阪府泉佐野市	健康都市の取組事例発表 「寝たきりにさせないまちづくりを目指し、健康づくり推進員と共に取り組む」 ※展示ブースに本市の紹介パネルを出展

⑵ 視察の受入れ・出張講義（出講）

平成16年6月に健康都市連合に加盟してから令和4年12月までの期間に、日本国内では29の都道府県の行政や議会、市民団体等から109件、国外ではＡＳＥＡＮ諸国や台湾、韓国、イギリス、フィンランド等から23件、視察の受入れを行っています。視察では、本市の主な健康都市の取組、健康づくり推進員の活動、あたまの元気まるや元気まる測定、食育の取組などが、国内外問わず関心の高い傾向にあり、近年では、ＳＤＧｓへの関心も高まっています。

出張講義についても、国内外から依頼等を受け、各国の健康都市連合加盟都市や国内自治体、企業、団体、大学等にて実施しています。依頼を受けたテーマは、全体的な健康都市の取組についてだけでなく、らくらく筋トレの効果、あさぴー号、まるごとウォーキングのまちづくりに関する内容などがあり、視察や出張講義を通して、様々な本市の健康都市の取組を多方面に発信することができています。

【視察受入れ・出講実績一覧】 ※詳細は、71・72ページのとおり

年度	視察受入件数	視察団体の内訳	出講件数	出講先の内訳
H19	7件	国内7		
H20	14件	国外3・国内11	1件	国内1
H21	7件	国外1・国内6		
H22	9件	国外1・国内8	1件	国外1
H23	11件	国外2・国内9	10件	国外1・国内9
H24	7件	国外1・国内6	11件	国外1・国内10
H25	21件	国外2・国内19	8件	国内8
H26	19件	国外2・国内17	3件	国外1・国内1
H27	12件	国外2・国内10		
H28	9件	国外1・国内8	7件	国外1・国内5
H29	4件	国外3・国内1	4件	国外1・国内3
H30	7件	国外3・国内4	5件	国外1・国内2
R1	3件	国外1・国内2		
R2			1件	国外1（オンライン）
R3			3件	国外3（オンライン）
R4	2件	国内2	1件	国内1
合計	132件	国外22・国内110	55件	国外11・国内40

※健康課及び健康都市推進室における視察受入件数・出講件数を集計
※アジア保健研修所（ＡＨＩ）は、国外の視察団体として集計
※出講依頼1件に対し、講義を複数件実施している場合は、出講先数は同一にならない。
※このほかにも市民団体等への出前講座を実施

⑶ 表彰の受賞

本市の健康都市の取組における表彰の受賞歴をまとめました。健康都市連合国際大会における受賞数は、日本国内で最多となっています。

年度	受賞名〔授与者〕	受賞内容
平成18年度 (第2回大会)	グッドプラクティス賞〔ＡＦＨＣ〕	健康都市プログラム（リーディングプラン）に沿った健康都市づくり
	プログレス賞（パフォーマンス賞）〔ＡＦＨＣ〕	過去3年間の健康都市の取組
平成19年度	健康都市アワード2007〔ＡＦＨＣ〕	組合施行による土地区画整理事業
平成20年度 (第3回大会)	クリエイティブ・ディベロップメント賞〔ＡＦＨＣ〕	市営バス「あさぴ一号」の取組～人とまちの健康の融合につながる移動手段の確保について～
	プログレス賞（グッドダイナミック賞）〔ＡＦＨＣ〕	過去3年間の健康都市の取組
平成22年度 (第4回大会)	クリエイティブ・ディベロップメント賞〔ＡＦＨＣ〕	尾張旭市の健康都市づくりの評価
	プログレス賞(ストロングアクション賞)〔ＡＦＨＣ〕	過去3年間の健康都市の取組
平成24年度 (第5回大会)	WHO西太平洋地域事務局長特別賞〔WHO〕	長年にわたる健康都市の継続的な優れた取組
	ベストプラクティス賞〔WHO〕	環境持続型健康推進都市交通システム～住民の交通手段　市営バス「あさぴ一号」～
	クリエイティブ・ディベロップメント賞〔ＡＦＨＣ〕	健康あさひ21計画による生活習慣病予防の取組
	クリエイティブ・ディベロップメント賞〔ＡＦＨＣ〕	大規模災害に備えるための災害対策(輪島市との災害協定)
	プログレス賞(ストロングアクション賞)〔ＡＦＨＣ〕	過去3年間の健康都市の取組
平成26年度 (第6回大会)	健康都市連合10周年記念感謝状〔ＡＦＨＣ〕	健康都市の取組と健康都市連合への貢献に対する感謝
	クリエイティブ・ディベロップメント賞〔ＡＦＨＣ〕	東日本大震災から教訓を得た大地震に備えた実践的な防災訓練の実施
	プログレス賞（コンプリヘンシブ・ディベロップメント賞）〔ＡＦＨＣ〕	過去3年間の健康都市の取組
平成28年度 (第7回大会)	ベストプラクティス賞〔WHO〕	地域、医療機関、民間企業等と連携した非常時の取組
	クリエイティブ・ディベロップメント賞〔ＡＦＨＣ〕	本市がこれまで取り組んできた健康都市づくりの振り返りと評価
	プログレス賞（エキスパート賞）〔ＡＦＨＣ〕	過去3年間の健康都市の取組

年度	受賞名〔授与者〕	受賞内容
平成30年度 (第8回大会)	ベストプラクティス賞〔WHO〕	住民参加によるアクセシブルなまちづくり
	クリエイティブ・ディベロップメント賞〔ＡＦＨＣ〕	尾張旭市の健康都市の取組とＳＤＧｓ
	プログレス賞(ストロングアクション賞)〔ＡＦＨＣ〕	過去3年間の健康都市の取組
令和2年度	第 9 回健康寿命をのばそう！アワード（生活習慣病予防分野・自治体部門） スポーツ庁長官優秀賞〔スポーツ庁〕	寝たきりにさせないまちづくりをめざし、健康づくり推進員とともに取り組む
令和3年度 (第9回大会)	クリエイティブ・ディベロップメント賞（最優秀賞）〔ＡＦＨＣ〕	緑と元気あふれる　住みよいまち　尾張旭
	クリエイティブ・ディベロップメント賞（優秀賞）〔ＡＦＨＣ〕	新型コロナワクチンの接種におけるリスクコミュニケーション
	クリエイティブ・ディベロップメント賞（優秀賞）〔ＡＦＨＣ〕	ＳＤＧｓの認知度向上と個々の行動の推進に向けた多部門連携の創造的な取組
	プログレス賞(ストロングアクション賞)〔ＡＦＨＣ〕	過去3年間の健康都市の取組

5　健康都市の取組の分析に基づく成果・課題

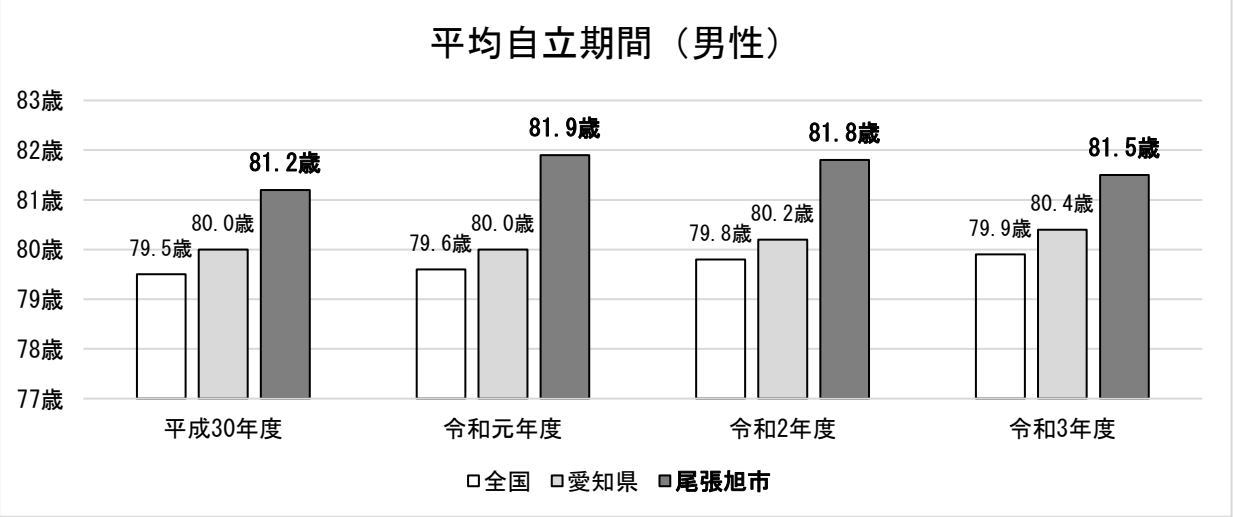
本市の健康都市の取組状況を検証するため、主要な指標のほか、取組分野ごとに分析しました。

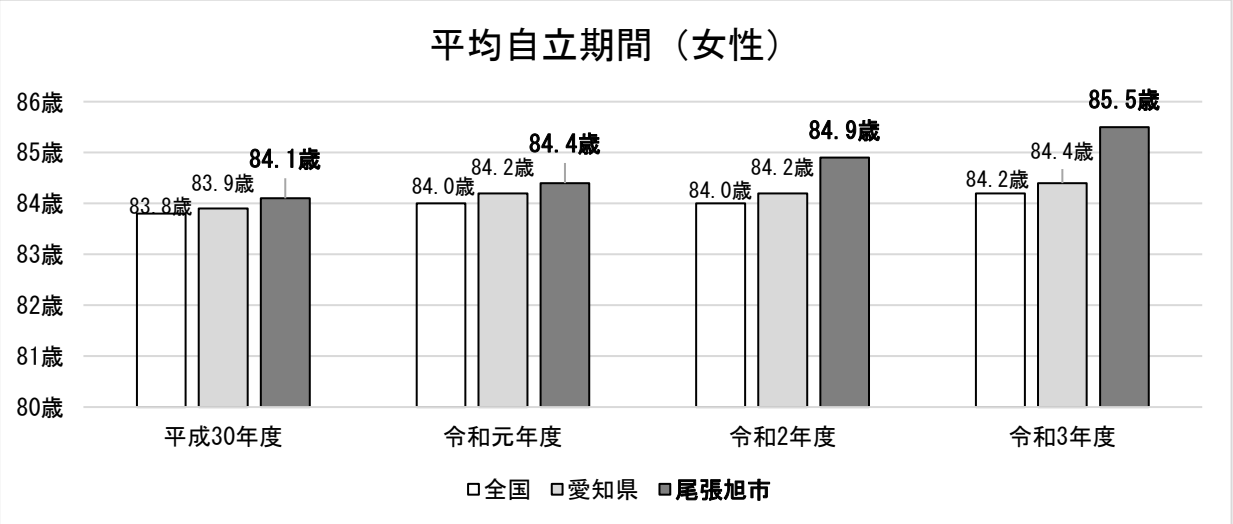
(1)　主要な指標

本市の健康づくりを他地域と相対的に比較するため、「平均自立期間（健康寿命）」、「要介護認定率」、「介護給付費」、「国民健康保険被保険者などの費用額」の本市データについて、それぞれの対象年度における数値を全国及び愛知県と比較しました。

ア　平均自立期間（健康寿命）※

平均自立期間は、男女共にコロナ禍前の平成30年度より上昇しています。また、本市は、全国や愛知県と比較して高い数値となっており、令和3年度では、男性・女性ともに愛知県を1.1年上回りました。





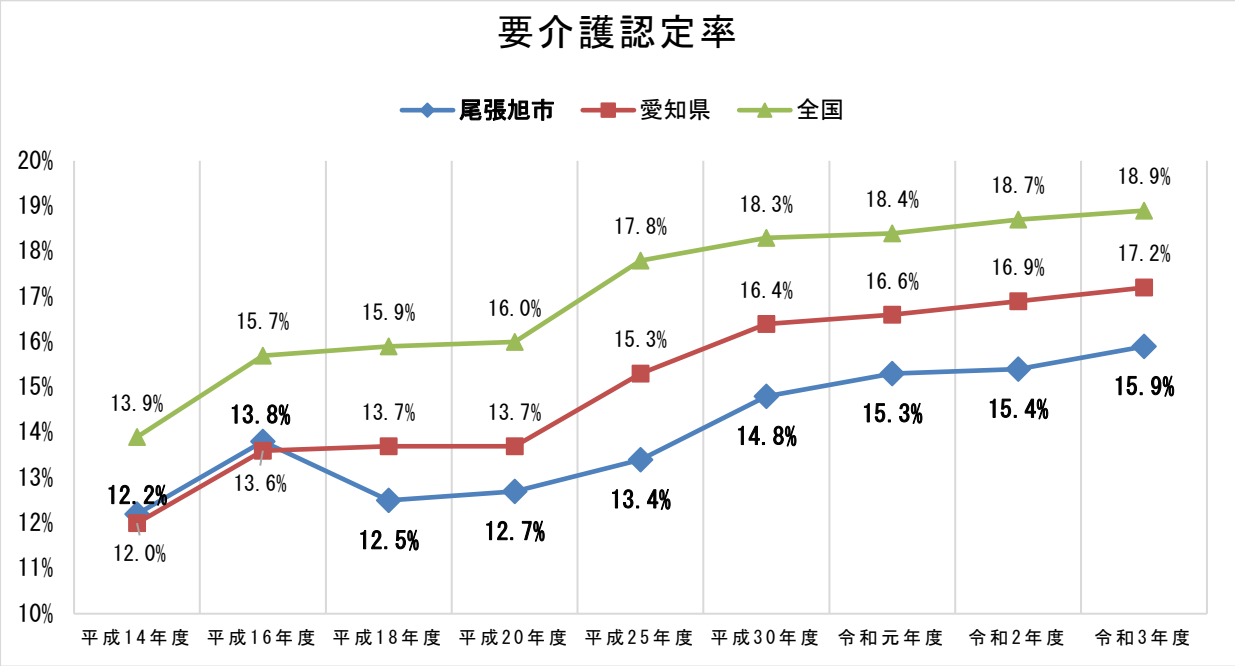
※平均自立期間とは、日常生活動作が自立している期間の平均のこと。要介護2以上を「不健康」と定義して、平均余命（0歳時点からその後何年生きられるかという期待値）から不健康期間を除いたもの

資料　国保データベース（KDB）

イ　要介護認定率※

要介護認定率については、増加傾向となっています。令和３年度末の数値は令和２度末から0.5ポイント上昇し、平成14年度末からは3.7ポイント増加しています。

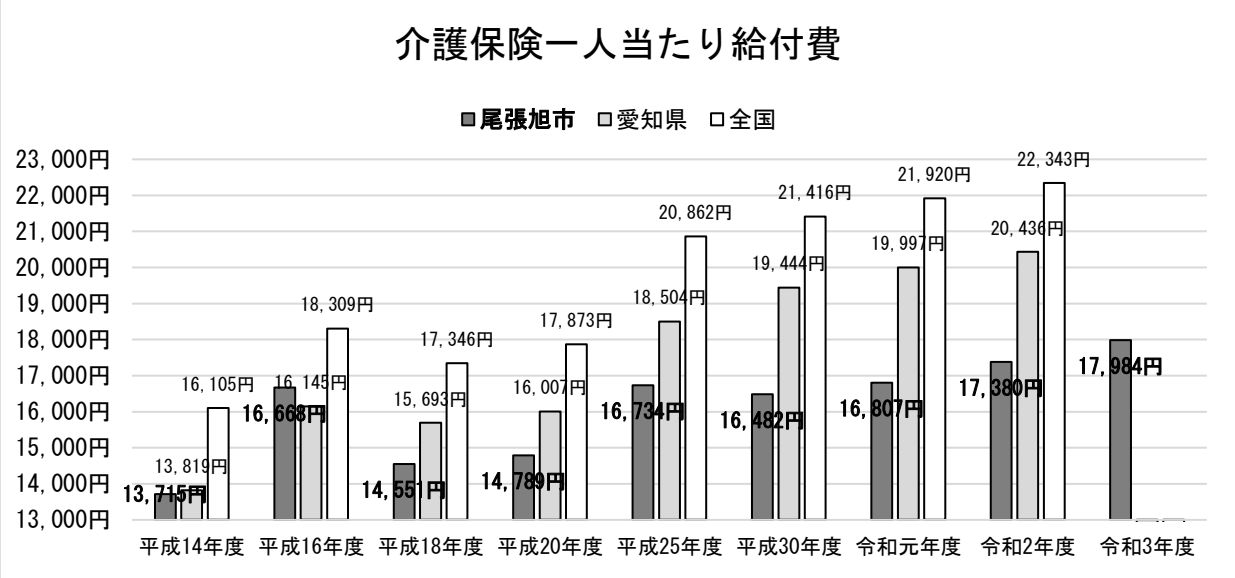
なお、全国及び愛知県と比較して、平成18年度以降においては、低く推移しています。



※要介護認定率とは、要介護（要支援）認定者数を第１号被保険者数で除したもの　　資料　全国・愛知県：厚生労働省　介護保険事業状況報告
尾張旭市：介護保険事業報告

ウ　介護給付費（一人当たり）※

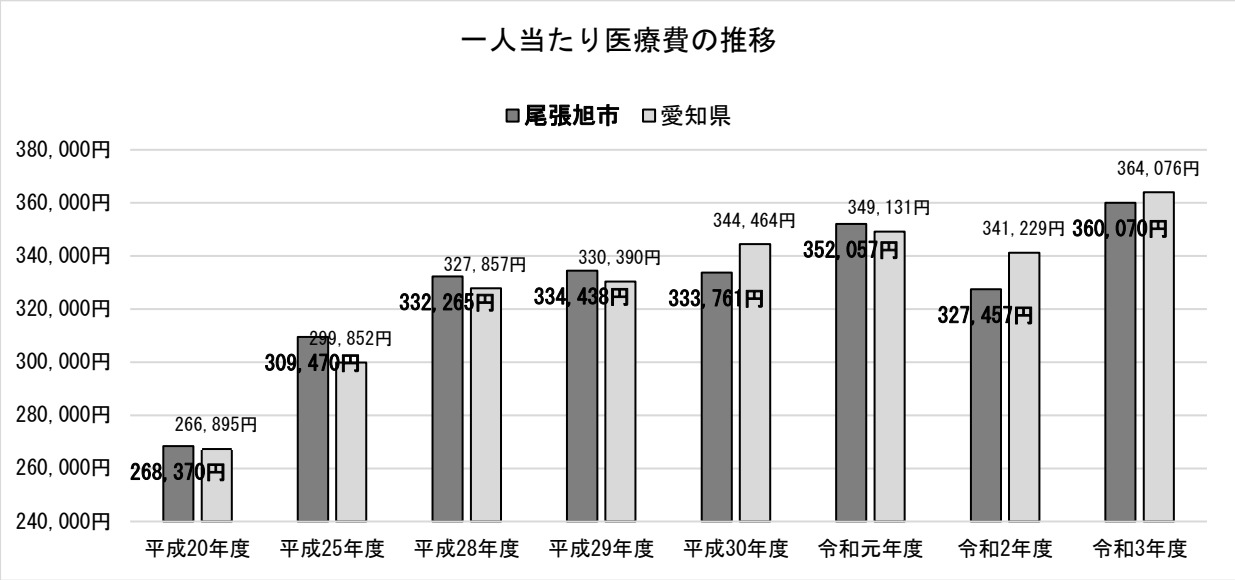
本市の介護給付費は、平成30年度以降、年々増加傾向で、令和３年度は令和２年度より604円増えています。なお、全国及び愛知県と比較して低く推移しています。

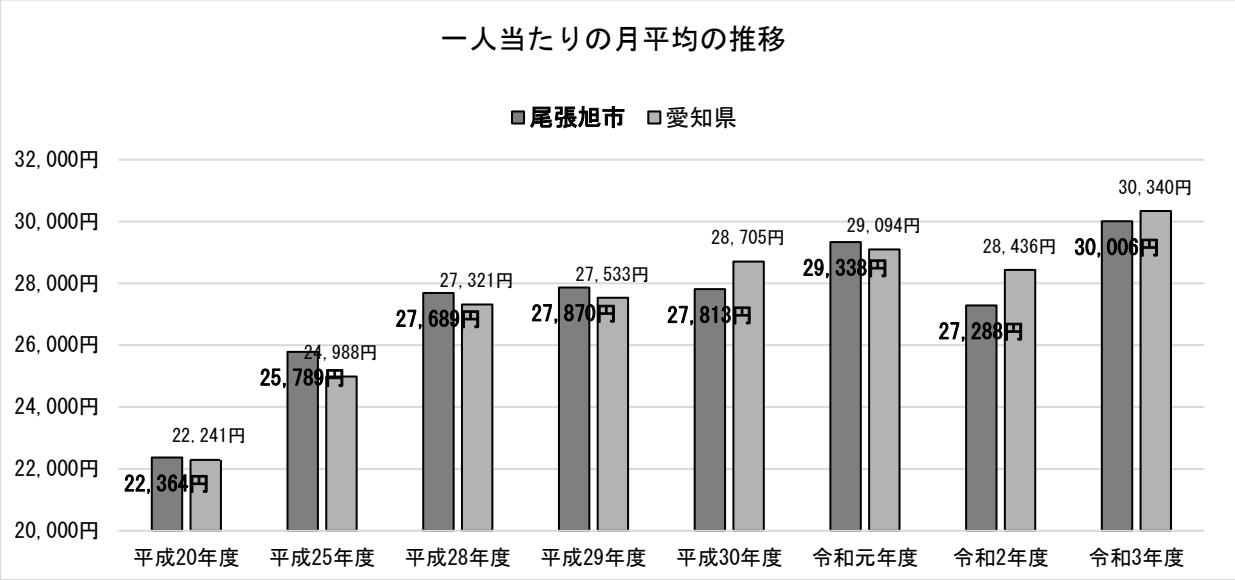


※介護給付費（居宅サービス、地域密着型サービス及び施設サービス）を、第１号被保険者数で除し、さらに月平均にするため12で除したもの
※令和３年度の愛知県及び全国の値は未公表　　資料　全国・愛知県：厚生労働省　介護保険事業状況報告
尾張旭市：介護保険事業報告

エ　国民健康保険被保険者などの費用額※

一人当たりの費用額及び月平均は、市・県ともに増加傾向です。平成29年度までは愛知県と比べ高い状況でしたが、平成30年度以降は令和元年度を除き低くなっています。





※平成20年4月の後期高齢者医療制度施行に伴い、旧老人保健制度は後期高齢者医療制度に変更されたため、平成20年度以降の数値を比較

※下段の一人当たり月平均の医療費の推移については、上段の一人当たり医療費の数値を月平均にするため、さらに12で除したもの

資料　愛知県・尾張旭市：国民健康保険事業調査票

⑵　「３つの施策の方針」及び健康都市全般に関する指標

健康都市の中長期的な成果を俯瞰するため、平成 14 年度～令和 3 年度の指標の推移を分析しました。なお、指標は、できる限り正確に経年比較を行うため、比較的変更の少ない総合計画の「施策の成果指標」を主に活用しました。

ア　寝たきりにさせないまちづくり

- 健康だと思う市民の割合
- 地域の医療機関を安心して利用している市民の割合
- 自立高齢者の割合
- 生きがいを持っている高齢者の割合
- スポーツ活動に親しむ市民の割合
- スポーツ活動を週１回以上行う成人市民の割合

イ　外に出かけたくなるまちづくり

- 生涯学習に取り組んでいる市民の割合
- 市外への移動が円滑に行えると思う市民の割合
- 市内の移動が円滑に行えると思う市民の割合
- 人口千人あたりの交通事故発生件数
- 地域活動に参加している市民の割合
- ボランティア活動・市民活動を行っている市民の割合

ウ　住み続けたくなるまちづくり

- 尾張旭市に住み続けたいと思う市民割合
- 緑・水辺に親しめる場所があると思う市民の割合
- わがまちに「愛着」を感じる市民の割合
- 子育てしやすいまちだと思う保護者の割合
- 秩序とやすらぎを感じる街が形成されていると思う市民の割合
- 下水道普及率
- 市の災害対策・防災体制に安心感を持つ市民の割合
- 市民レベルでの防災・減災体制ができていると思う市民の割合
- 心肺機能停止患者の生存率
- 人口千人あたりの犯罪発生件数
- 治安がよく、安心して住めると思う市民の割合
- 快適な生活衛生環境だと思う市民の割合

エ　健康都市全般

- 尾張旭市が健康都市を目指していることを知っている市民割合
- 情報の提供・公開が充実していると感じる市民の割合
- 市政への参画、広聴の機会が充実していると感じる市民の割合
- 学校生活を楽しく送っている児童の割合
- 学校生活を楽しく送っている生徒の割合
- ごみ総排出量
- 社会全体として男女の地位は平等になっていると思う市民の割合

＜指標の分析区分＞

あさぴーの表情で、平成 14・30 年度と令和 3 年度を比較して次のとおり区分しています。 ※年度により数値が無いものは、それぞれ一番近い年度の数値で比較しています。		
改善 （5 ポイント以上）	横ばい （±5 ポイント未満）	下降 （5 ポイント以上）

＜評価結果総括表（平成 14 年度と令和 3 年度の比較）＞　※割合は概数

区分	指標数	改善指標数 （割合）	横ばい指標数 （割合）	下降指標数 （割合）
寝たきりにさせないまちづくり	6	3 （50%）	1 （17%）	2 （33%）
外に出かけたくなるまちづくり	6	1 （17%）	3 （50%）	2 （33%）
住み続けたくなるまちづくり	12	10 （83%）	2 （17%）	0 （0%）
健康都市全般	7	6 （86%）	1 （14%）	0 （0%）
合計	31	20 （65%）	7 （22%）	4 （13%）

＜成果と課題＞

・3 つの施策の方針及び健康都市全般で計 31 の指標のうち、約 3 分の 2（65%）の 20 指標で改善しています。中でも、「住み続けたくなるまちづくり」「健康都市全般」では、改善した指標が 8 割を超えるなど、高い成果が上がっています。

・一方、「外に出かけたくなるまちづくり」においては、コロナ禍を経て、横ばい又は悪化した指標が多く、課題があります。

・各区分の指標の推移及び具体的な分析結果は、次ページ以降のとおりです。

ア　寝たきりにさせないまちづくり

年度	健康だと思う市民の割合	地域の医療機関を安心して利用している市民の割合	自立高齢者の割合
H14	83.4%	88.6%	87.8%
H15			
H16	82.3%	89.4%	86.2%
H17			86.6%
H18	79.8%	89.6%	87.5%
H19			87.4%
H20	80.8%	89.9%	87.3%
H21			87.8%
H22	80.1%	90.6%	87.5%
H23			87.3%
H24	90.1%	93.9%	86.8%
H25	88.1%	90.6%	86.6%
H26			86.7%
H27	88.8%	93.0%	86.2%
H28			86.1%
H29	88.1%	94.2%	85.8%
H30	88.2%	91.9%	85.2%
R1	88.1%	92.7%	84.7%
R2			80.2%
R3	87.5%	93.9%	79.7%

H14 → R3 （約20年前からの比較分析）	＋ 4.1ポイント	＋ 5.3ポイント	△ 8.1ポイント
	元々高い水準であるが、特に平成24年度以後は、80%台後半以上の水準を維持している。	平成14年度以後、12回の調査で平均91.5%と非常に高い水準で成果が推移しており、変動は小幅である。	高齢化の進展に伴い、低下を免れない指標であり、継続的に低下傾向である。
H30 → R3 （新型コロナウイルス感染症の影響の分析）	△ 0.7ポイント	＋ 2.0ポイント	△ 5.5ポイント
	若干数値の低下は見られるが、誤差の範囲内であり、コロナ禍においても市民の健康意識の高さが継続している。	コロナ禍でも数値が低下していないことから、地域の医療体制へのゆるぎない信頼性の高さがうかがわれる。	近年、低下幅が大きい。ミニデイサービスやシニアクラブ活動などの高齢者の集いの場が休止され、活動量が減っていることも要因の一つと考えられる。

＜成果と課題＞

・「健康だと思う市民の割合」と「地域の医療機関を安心して利用している市民の割合」は、非常に高い成果となっており、健康都市宣言後の様々な取組が着実に市民の間に浸透していることが表れています。

・高齢化が進む中、「自立高齢者の割合」の低下を避けることはできませんが、その低下を抑制することが重要な課題となります。

年度	生きがいを持っている高齢者の割合	スポーツ活動に親しむ市民の割合	スポーツ活動を週1回以上行う成人市民の割合
H14	81.6%	42.1%	22.5%
H15			
H16	75.8%	42.2%	23.7%
H17			
H18	77.3%	40.8%	25.7%
H19			
H20	77.9%	46.2%	29.6%
H21			
H22	72.9%	45.3%	30.1%
H23			
H24	81.9%	61.3%	50.9%
H25	78.8%	59.0%	43.3%
H26			
H27	77.8%	61.9%	48.4%
H28			
H29	73.1%	60.7%	46.4%
H30	70.8%	70.0%	58.5%
R1	70.5%	75.6%	63.8%
R2			
R3	66.2%	71.3%	54.4%

H14 → R3 （約20年前からの比較分析）	△ 15.4ポイント	＋ 29.2ポイント	＋ 31.9ポイント
	平成24年度をピークに、数値の低下が続いている。今後もさらなる高齢化が進む中で、大きな課題である。	大幅な成果向上は、「スポーツ」の解釈の多様化による側面もあるが、健康都市の成果として捉えることができる。	大幅な成果向上は、「スポーツ」の解釈の多様化による側面もあるが、健康都市の成果として捉えることができる。
H30 → R3 （新型コロナウイルス感染症の影響の分析）	△ 4.6ポイント	＋ 1.3ポイント	△ 4.1ポイント
	近年、低下幅が大きい。シニアクラブ活動や趣味活動の中止や制限があったことも要因の一つと考えられる。	令和元年度に最高値を記録したのち、若干指標が低下していることは、誤差の範囲内ではあるものの、コロナ禍の影響も一因と考えられる。	令和元年度と比較して大きく低下している。外出する機会の減少に伴い、スポーツを実施する頻度も減少したことが要因の一つと考えられる。

＜成果と課題＞

・「生きがいを持っている市民割合」の指標の悪化は、今回の分析の中でも特に大きな懸念事項となっています。新型コロナウイルス感染症の影響により公共施設の休館など活動の制限があったことが要因の一つと考えられます。

・「スポーツ活動」に関する指標は、長期的に見ると改善の傾向にあります。コロナ禍を越えて、さらに向上させていくことが求められます。

イ　外に出かけたくなるまちづくり

年度	生涯学習に取り組んでいる市民の割合	市外への移動が円滑に行えると思う市民の割合	市内の移動が円滑に行えると思う市民の割合
H14	44.2%	指標なし	指標なし
H15			
H16	41.6%		
H17			
H18	39.1%		
H19			
H20	36.7%		
H21			
H22	36.5%		
H23			
H24	44.1%	89.1%	85.7%
H25	37.2%		
H26			
H27	39.7%	88.9%	84.7%
H28			
H29	45.0%	89.3%	85.0%
H30	43.3%	87.3%	83.2%
R1	47.4%	88.9%	83.3%
R2			
R3	37.6%	91.5%	87.5%

H14 → R3 （約20年前からの比較分析）	△ 6.6ポイント	＋ 2.4ポイント	＋ 1.8ポイント
	比較的変動の幅が大きい指標である。コロナ禍の影響で、数値の大幅な低下がみられる。	平成24年度以後の6回の調査で平均89.2%の高い成果水準であり、変動は小幅である。	市外への移動の満足度には及ばないものの、6回の調査で平均84.9%の高い成果水準であり、変動は小幅である。
H30 → R3 （新型コロナウイルス感染症の影響の分析）	△ 5.7ポイント	＋ 4.2ポイント	＋ 4.3ポイント
	感染不安により、生涯学習活動を中断したり、新たに始めることを躊躇していることが要因の一つと考えられる。	外出の機会が減少する中ではあるが、令和3年度に過去最高値を記録しており、高い満足度となっている。	外出の機会が減少する中ではあるが、令和3年度に過去最高値を記録しており、高い満足度となっている。

＜成果と課題＞

・生涯学習の満足度は、４割前後で推移していますが、生きがいにも大きな影響を与える施策であるため、今後はさらに重要度が高まると考えられます。

・市内外への移動に関する指標は、高い値で推移していますが、市外と市内では毎回４ポイント程度の差があります。高齢化に対応した市内外の移動施策の充実が今後も重要になっています。

年度	人口千人あたりの交通事故発生件数	地域活動に参加している市民の割合	ボランティア活動・市民活動を行っている市民の割合
H14	40.9件	26.2%	8.4%
H15			
H16	36.1件	22.5%	11.9%
H17	36.7件		
H18	34.3件	25.1%	11.2%
H19	31.8件		
H20	29.1件	21.8%	12.7%
H21	30.8件		
H22	32.7件	23.5%	11.6%
H23	29.0件		
H24	32.2件	27.2%	15.0%
H25	31.8件	21.8%	10.3%
H26	33.2件		
H27	32.4件	24.7%	11.0%
H28	33.5件		
H29	31.3件	23.6%	11.4%
H30	30.8件	24.1%	11.9%
R1	28.8件	24.5%	12.7%
R2	23.4件		
R3	25.7件	10.1%	5.4%

H14 → R3 （約20年前からの比較分析）	△ 37.2ポイント	△ 16.1ポイント	△ 3.0ポイント
	約20年間で、件数が4割減少した。「外に出かけたくなるまちづくり」を支える重要な要素である。	約15年間にわたり同水準（25%前後）で推移していたが、コロナ禍で、R3に大きく悪化しており、課題となっている。	平成24年度の15%を除き、10%前後で推移してきたが、コロナ禍で令和3年度に大きく悪化しており、課題となっている。
H30 → R3 （新型コロナウイルス感染症の影響の分析）	△ 16.6ポイント	△ 14.0ポイント	△ 6.5ポイント
	ステイホームで外出の機会が減少する中、交通事故も減少している状況が伺われる。	コロナ禍において、地域で実施する事業の中止・自粛が相次いだことが、要因の一つと考えられる。	対面でのボランティアや市民活動の中止・自粛、団体代表者・参加者の高齢化による団体数減少が要因の一つと考えられる。

＜成果と課題＞

・交通事故の年代別割合を見ると、高齢者の事故が高い割合を占めていますが、事故件数は減少傾向が続いています。今後も、交通事故の少ないまちづくりを進めることで、安心して外に出かけられる環境づくりが必要です。

・地域活動、ボランティア活動及び市民活動は、コロナ禍の影響を最も大きく受けています。コロナ禍を越えて、外に出かけたくなるまちづくりを進める上では、これらの活動の推進により一層注力することが求められています。

ウ　住み続けたくなるまちづくり

年度	尾張旭市に住み続けたいと思う市民割合	緑・水辺に親しめる場所があると思う市民の割合	わがまちに「愛着」を感じる市民の割合
H14	76.3%	81.2%	指標なし
H15			
H16	77.1%	81.4%	
H17			
H18	79.8%	84.4%	
H19			
H20	79.8%	85.3%	
H21			
H22	80.1%	85.7%	
H23			
H24	81.4%	87.3%	69.1%
H25	76.5%	88.8%	
H26			
H27	79.8%	86.9%	64.3%
H28			
H29	77.8%	89.1%	64.9%
H30	80.3%	84.9%	78.3%
R1	80.9%	87.2%	81.3%
R2			
R3	75.1%	89.7%	80.0%

H14 → R3 （約20年前からの比較分析）	△ 1.2ポイント	＋ 8.5ポイント	＋ 10.9ポイント
	平成14年度以後12回の調査で、平均79%の高い成果水準である。	平成14年度以後12回の調査で、平均86%の高い成果水準である。	約10年間で、10ポイント以上の成果向上は、まちづくりの成果と捉えることができる。
H30 → R3 （新型コロナウイルス感染症の影響の分析）	△ 5.2ポイント	＋ 4.8ポイント	＋ 1.7ポイント
	令和3年度に5ポイント以上の指標悪化が見られた。コロナ禍の影響は不明であり、次回調査と併せて多角的に分析する必要がある。	元々高い水準であったが、R3に最高値を示している。全国植樹祭の開催も成果向上に寄与していると考えられる。	平成30年度以降、成果が約8割の高い水準で安定しており、コロナ禍の影響は少ない。

＜成果と課題＞

・尾張旭市に住み続けたいと思う市民の割合は、令和 3 年度の値が平成 14 年度以後最も低くなっている一方、緑や水辺に親しめる場所への満足度や、まちへの愛着度については、成果が伸びています。

・「脱炭素」や「ＧＸ（グリーントランスフォーメーション）」が時代のキーワードとなる中、今後も自然保護や環境美化に取り組むことが求められ、多角的な分析と多方面からの取組が必要です。

年度	子育てしやすいまちだと思う保護者の割合	秩序とやすらぎを感じる街が形成されていると思う市民の割合	下水道普及率
H14	72.2%	86.5%	45.2%
H15			
H16	65.6%	87.5%	47.3%
H17			49.1%
H18	72.6%	89.3%	50.9%
H19			52.3%
H20	67.5%	91.2%	58.2%
H21			60.6%
H22	60.4%	90.8%	62.4%
H23			63.4%
H24	89.6%	90.2%	63.7%
H25		90.4%	65.0%
H26			67.4%
H27	86.2%	91.2%	69.1%
H28			72.7%
H29	84.9%	91.0%	75.1%
H30	84.1%	91.4%	76.6%
R1	87.2%	91.8%	79.6%
R2			82.4%
R3	81.0%	93.6%	84.6%

H14 → R3 （約20年前からの比較分析）	＋ 8.8ポイント	＋ 7.1ポイント	＋ 39.4ポイント
	社会環境等の影響により、変動の大きい指標である。平成24年度のピーク以降は、80%台で推移している。	平成14年度以後、12回の調査で平均90.4%と非常に高い水準であり、微増傾向である。	約20年間で、40ポイント近い普及率の向上は、都市基盤整備に重点的に取り組んできた成果と捉えることができる。
H30 → R3 （新型コロナウイルス感染症の影響の分析）	△ 3.1ポイント	＋ 2.2ポイント	＋ 8.0ポイント
	令和3年度の指標の低下について、コロナ禍の影響は不明である。次回調査と併せて分析する必要がある。	コロナ禍でも都市基盤整備は確実に進んでおり、令和3年度に過去最高値を記録した。	計画的な下水道面整備を実施し、供用開始区域を拡大したことにより、成果が向上している。

＜成果と課題＞

・子育てしやすい環境等を整備するため、五次総の計画期間内に組織や取組が強化され、成果が上がっています。令和５年４月には、こども家庭庁が発足する予定であり、さらなる取組が求められます。

・「秩序とやすらぎを感じる街」と感じる市民の割合を見ると、継続的な微増傾向を示しており、本市の都市基盤整備に対する極めて高い満足度となっています。土地区画整理事業の進捗や下水道の普及率の着実かつ大幅な向上も、その一因と考えられます。

年度	市の災害対策・防災体制に安心感を持つ市民の割合	市民レベルでの防災・減災体制ができていると思う市民の割合	心肺機能停止患者の生存率
H14	53.1%	30.6%	2.4%
H15			
H16	48.7%	32.4%	4.4%
H17			7.9%
H18	56.4%	35.3%	1.9%
H19			9.4%
H20	60.5%	38.1%	9.6%
H21			3.6%
H22	64.8%	37.2%	7.7%
H23			8.6%
H24	65.4%	37.6%	9.7%
H25	63.7%	38.9%	7.8%
H26			8.1%
H27	69.4%	40.4%	8.3%
H28			4.2%
H29	69.0%	41.3%	8.1%
H30	66.5%	36.3%	8.1%
R1	66.9%	36.8%	7.5%
R2			10.3%
R3	76.0%	33.0%	8.0%

H14 → R3 （約20年前からの比較分析）	＋ 22.9ポイント	＋ 2.4ポイント	＋ 5.6ポイント
	平成14年度以後、12回の調査で平均63.4%であるが、徐々に数値が向上しており、まちづくりの成果と捉えることができる。	ピーク時である平成29年度までは増加傾向であったが、その後、数値が低下し、元の水準となっている。	母数が少ないため、変動幅の大きい指標である。平成24年度までの10年間で大きく数値が向上し、その水準を維持している。
H30 → R3 （新型コロナウイルス感染症の影響の分析）	＋ 9.5ポイント	△ 3.3ポイント	△ 0.1ポイント
	コロナ禍においては、防災訓練のオンライン化などの取組を進め、令和3年度に過去最高値を記録した。	コロナ禍で複数年にわたり防災活動を含む地域活動自体が縮小傾向にあることが要因の一つと考えられる。	令和2年度・3年度の数値からは、コロナ禍の影響は見られない。

＜成果と課題＞

・災害対策・防災体制に対する安心感は、東日本大震災を前後して大きな指標の変動はなく、向上傾向で推移しています。その一方で、市民レベルでの防災意識については伸びていないため、今後は、自助・共助による防災体制の強化に関する取組が、一層求められます。

・心肺機能停止患者の生存率は、救急体制の強化やＡＥＤの普及により、向上してきたと考えられます。今後も、着実な取組が必要な分野です。

年度	人口千人あたりの犯罪発生件数	治安がよく、安心して住めると思う市民の割合	快適な生活衛生環境だと思う市民の割合
H14	30.1件	54.3%	58.8%
H15			
H16	25.3件	48.0%	56.1%
H17	25.3件		
H18	19.0件	66.0%	57.1%
H19	14.4件		
H20	14.5件	70.9%	67.2%
H21	16.4件		
H22	17.3件	74.6%	68.0%
H23	15.0件		
H24	13.5件	78.8%	69.5%
H25	13.4件	73.5%	73.3%
H26	10.6件		
H27	9.1件	77.2%	71.9%
H28	8.6件		
H29	7.9件	78.6%	72.3%
H30	5.5件	81.2%	68.2%
R1	5.4件	82.6%	75.8%
R2	4.0件		
R3	3.7件	87.5%	79.1%

H14 → R3 （約20年前からの比較分析）	△ 87.7ポイント	＋ 33.2ポイント	＋ 20.3ポイント
	約20年間で、9割近く件数が減少しているのは劇的な変化であり、安全安心のまちづくりの成果と捉えることができる。	約20年間で、30ポイント以上の成果向上は劇的な変化であり、安全安心のまちづくりの成果と捉えることができる。	約20年間で、20ポイント以上の成果向上は劇的な変化であり、まちづくりの成果と捉えることができる。
H30 → R3 （新型コロナウイルス感染症の影響の分析）	△ 32.7ポイント	＋ 6.3ポイント	＋ 10.9ポイント
	コロナ禍においても、犯罪発生件数の減少傾向は続いている。	平成30年度以後、3回連続で過去最高値を更新しており、コロナ禍においても成果が向上している。	令和元年度以降、2回連続で過去最高値を更新しており、コロナ禍においても成果が向上している。

＜成果と課題＞

・犯罪発生件数と治安に対する市民意識は、ともに大きく改善しており、相関関係が見られます。また、生活衛生環境に対する満足度も、継続的に成果が向上しています。

・これらは、住み続けたくなるまちづくりにとって、なくてはならない重要な要素であり、今後も成果の維持・向上が求められます。

エ　健康都市全般

年度	尾張旭市が健康都市を目指していることを知っている市民割合	情報の提供・公開が充実していると感じる市民の割合	市政への参画、広聴の機会が充実していると感じる市民の割合
H14	指標なし	67.8%	74.3%
H15			
H16		68.4%	74.2%
H17			
H18	44.9%	68.5%	72.7%
H19			
H20	60.7%	73.5%	76.3%
H21			
H22	68.3%	69.6%	74.7%
H23			
H24	77.1%	72.6%	75.8%
H25	73.7%	76.4%	79.4%
H26			
H27	74.7%	74.1%	77.9%
H28			
H29	75.3%	78.1%	80.9%
H30	73.6%	76.5%	80.7%
R1	75.4%	74.7%	78.6%
R2			
R3	64.8%	82.2%	84.0%

H14 → R3 （約20年前からの比較分析）	＋ 19.9ポイント	＋ 14.4ポイント	＋ 9.7ポイント
	平成24年度をピークに下降しているのは、アンケートの設問を変更したことが理由として考えられる。コロナ禍を経て悪化したことが課題である。	約20年間で、徐々に成果が向上しており、まちづくりの成果と捉えることができる。	約20年間で、徐々に成果が向上しており、まちづくりの成果と捉えることができる。
H30 → R3 （新型コロナウイルス感染症の影響の分析）	△ 8.8ポイント	＋ 5.7ポイント	＋ 3.3ポイント
	コロナ禍により健康都市のPR機会が減ったほか、外出自粛などから健康づくりに取り組む機会も減ったことが要因と考えられる。	令和3年度に過去最高値を記録しており、コロナ禍における市の情報発信が評価されていることが伺われる。	令和3年度に過去最高値を記録しており、コロナ禍においても市政への参画機会が評価されていることが伺われる。

＜成果と課題＞

・健康都市の認知度は、平成 24 年度以後、75%前後で推移していましたが、令和 3 年度に大きく減少しており、課題があります。

・情報提供・広聴の機会に対する満足度は、ともに向上傾向です。近年では、デジタル化が急速に進展しており、こうした環境変化への対応が課題となっています。

年度	学校生活を楽しく送っている児童の割合	学校生活を楽しく送っている生徒の割合	ごみ総排出量	社会全体として男女の地位は平等になっていると思う市民の割合
H14	91.4%	86.2%	指標なし	18.9%
H15				
H16	93.9%	91.9%		19.2%
H17				
H18	93.5%	86.3%		28.2%
H19				
H20	94.8%	90.4%		40.0%
H21				
H22	92.9%	83.6%		38.1%
H23				
H24	97.0%	92.9%	27,492t	35.1%
H25	96.8%	93.0%		36.2%
H26	96.7%	90.2%	26,915t	
H27	96.1%	92.4%	26,393t	33.5%
H28	95.8%	90.6%	25,531t	
H29	97.2%	93.2%	25,209t	35.1%
H30	95.0%	92.9%	24,805t	34.8%
R1			25,957t	38.6%
R2	93.6%	94.2%		
R3	96.3%	95.5%	25,571t	35.2%

H14 → R3 （約20年前からの比較分析）	＋ 4.9ポイント	＋ 9.3ポイント	△ 7.0ポイント	＋ 16.3ポイント
	非常に高い水準で成果が推移しており、変動は小幅である。		平成24年度から平成30年度までは減少傾向が続いた。その後一旦増加しているが、減少傾向は変わっていない。	SDGsにおいて、日本は国際的に遅れている分野であるが、特に平成10年代に意識の変革が進んだことが見て取れる。
H30 → R3 （新型コロナウイルス感染症の影響の分析）	＋ 1.3ポイント	＋ 2.6ポイント	＋ 3.1ポイント	＋ 0.4ポイント
	コロナ禍においても、安定して高い水準を保っている。		コロナ禍の影響から令和元年度に増加したが、令和3年度には減少に転じている。	コロナ禍により、ジェンダー不平等の実態がクローズアップされたこともあり、令和元年度と比較すると令和3年度に若干の指標の低下が見られる。

＜成果と課題＞

・学校生活を楽しく送っている児童・生徒の割合は、ともに非常に高い割合で推移しています。一方、一部の児童生徒は深刻な問題を抱えており、きめ細やかな対応が必要になっています。

・ごみ総排出量は、微減傾向ですが、コロナ禍において、一時的な増加も見られます。「脱炭素」や「ＧＸ（グリーントランスフォーメーション）」が新しい時代のキーワードとなる中、ごみの排出量と健康寿命の相関関係も指摘されており、今後、注力が必要な分野になっています。

・男女共同参画社会の形成が求められる中、成果向上は、頭打ちの状況になっています。ＳＤＧｓの目標において、日本の取組は低い水準にとどまっていると言われており、さらなる取組が課題です。

⑶　リーディングプランに基づく取組

健康都市プログラムには「リーディングプラン」を設け、これにより、健康都市の実現を先導し、「健康都市　尾張旭」のＰＲを行うこととしています。

具体的には、平成 17 年 12 月に策定した「健康都市プログラム」では下表左欄のとおり 5 項目を、また、平成 26 年度からの「健康都市プログラム（改訂版）」では下表右欄のとおり 7 項目をリーディングプランとしています。

	当初プログラム (H17. 12 月～H25 年度)		改訂版 (H26 年度～R5 年度)	備考
1	元気まるいきいきネット	1	いきいき元気サイクル	再編・名称変更
		2	高齢者はつらつアップ	追加
2	まるごと ウォーキングのまち	3	まるごと ウォーキングのまち	継続
3	温泉活用型休養・交流	4	心まるごとリフレッシュ	再編・名称変更
4	農と食による健康増進	5	食育による健康推進	再編・名称変更
5	エコ・ガーデンシティ	6	エコ・ガーデンシティ	継続
		7	まちのまるごと リノベーション	追加

次ページからは、「健康都市プログラム（改訂版）」の 7 つのリーディングプランについて、計画期間内に実施した主な取組や関連する取組を整理するとともに、その成果と課題を記述します。

ア　いきいき元気サイクル

＜プランの内容・実施した取組＞

プランの構成	プランの概要	期間内に実施した主な取組
健康チェック（C：チェック）	若者から高齢者まで、各世代に応じた健康診査や元気まる測定を推進し、市民一人一人が自分の健康をチェックできるように市民カルテを作成します。 また、正しい健康の知識を身につけるため、健康講座などを開催します。	・市民総元気まる事業の推進 ・歯科健康診査の拡充 ・歯科健康教育の推進 ・妊産婦・乳幼児健診の拡充 ・がん検診の推進 ・その他各健診業務の推進 ・健康づくり教室の推進
健康相談・指導（M：マネジメント）	健康診査や元気まる測定の結果に基づき、個人の健康状態に応じた適切な健康づくりを推進するために健康相談･指導を行います。	・母子・産後母子保健指導の拡充 ・妊娠後期電話相談の実施 ・乳幼児・学童児対象相談事業の実施 ・外国人用自動翻訳機の配備
健康づくり（H：ヘルス）の支援	健康相談･指導の内容に基づき、市民一人一人に合った健康目標を設定し、生活習慣の改善や適正な運動ができるよう支援します。	・らくらく筋トレ教室の開催 ・元気まる測定事後教室の開催 ・各種教室の普及啓発 ・健康づくり推進員及び食生活改善推進員の養成講座の開催

＜関連する取組＞

・健康まつりの開催
・健康づくりトレーニングの指導事業の実施
・禁煙及び分煙の推進に向けた事業の実施
・健康手帳の配布

＜成果と課題＞

・四次総及び五次総においても最重要施策の一つとして健康づくりの推進が位置付けられ、本市が力を入れて取り組んできた分野です。
・市民総元気まる事業については、開始から多くの市民が参加し、また妊産婦・乳幼児などの各種相談事業や保健指導を推進した結果、市民の健康づくりへの関心は高まっており、施策の成果指標においても、健康だと思う市民の割合が増加しています。
・今後は、若者世代や対象者別の特徴に合わせた健診事業などの健康づくりを行うため、効果的な普及啓発方法を検討し、実施していく必要があります。
・コロナ禍により外出機会が減少していますが、新しい生活様式により低下した心身機能の向上を図り、誰もが年齢を重ねても元気にいきいきと意欲的に活動できるよう、市民と共に協力しながら健康づくりを推進していく必要があります。

イ　高齢者はつらつアップ

＜プランの内容・実施した取組＞

プランの構成	プランの概要	期間内に実施した主な取組
高齢者の健康チェック	軽度認知障がいの早期発見・予防のため「あたまの元気まる」を推進するとともに、「元気まる測定」で生活習慣や体力をチェックします。	・あたまの元気まるを実施 ・あたまの元気まる号の導入 ・出張あたまの元気まるの実施 ・電話であたまの元気まるの実施
認知障がいの予防・指導	「あたまの元気まる」や「元気まる測定」の診断結果を基に、健康づくりの取組をアドバイスします。 また、専門スタッフによる適切な健康教室及び健康評価事後教室などを開催します。	・脳力アップ教室 ・らくらく脳の健康教室 ・コグニサイズの推進 ・脳活大作戦
ケア体制の充実	軽度認知障がいの疑いがあると判定された場合は、保健師などによる生活習慣のチェック・見直し、脳の活性化訓練などを行い、状況に応じて地域医療機関を紹介します。	・健康相談の充実 ・認知症おたすけパスの交付 ・認知症カフェの紹介

＜関連する取組＞

・運動・スポーツ活動の推進

・医療体制の充実

・地域事業者との地域活性化包括連携協定の締結

＜成果と課題＞

・このプランは、改訂版において追加された項目ですが、「あたまの元気まる」は、地方自治体で初めての取組でもあり、開始以来、継続的に注力してきました。高齢化が進む中、今後も積極的に取り組んでいくことが求められます。

・「あたまの元気まる」の受検及び事後の予防事業への参加は、早期スクリーニングと認知症の予防において高い効果があると認められており、多くの市民が参加しています。

・コロナ禍で発生した高齢者の社会性・活動性の低下は、日常生活動作（ＡＤＬ）や生活の質（ＱＯＬ）の低下、健康の脆弱化、認知機能の低下などのリスクとして認識されています。今後も迅速な状態把握と保健指導、また、自発的な健康維持活動の継続が課題となっています。

ウ　まるごとウォーキングのまち

＜プランの内容・実施した取組＞

プランの構成	プランの概要	期間内に実施した主な取組
歩く道のネットワークづくり	交通事故の心配が無く、安心して歩くことができる歩道、散策路のネットワークを全市的に形成し、ウォーキングに適した環境を整備します。	・横断歩道橋の点検・補修 ・交差点のカラー舗装（交通事故抑止対策） ・ため池の散策路整備 ・橋梁の耐震補強工事
憩いと健康のスポットづくり	ウォーキングの休憩場所や目的地となる憩いのスポットとして公園などを整備します。また、拠点となる公園などには健康遊具を配置し、ウォーキングしながら気軽にトレーニングができる環境を整備します。	・都市公園の新設整備 ・城山公園の拡張整備 ・健康遊具の設置 ・公民館の施設整備 ・エドヒガンザクラ自生地の整備 ・吉賀池湿地の木道改修工事 ・老朽化した公園の詳細設計
ウォーキングの楽しみづくり	健康・体力の向上としてだけでなく、「歴史」、「環境」、「自然」などのテーマを設け、多くの市民が興味を持てる魅力あるウォーキング大会を開催するとともに、地域や市民活動団体などが連携して実施するウォーキング大会を支援します。	・あさぴースマイルウォーキング開催 ・歩っとチャレンジウォーキング ・矢田川さんぽみちウォーキング大会 ・あさひ軽々楽々ウォーキング ・市民団体主催のウォーキング

＜関連する取組＞

・ウォーキングガイドＡ－ｍａｐ（ええまっぷ）の作成・コースの新設
・あさひ健康マイスター対象事業に「歩っとチャレンジウォーキング」の追加
・健康づくり推進員の養成
・スポーツ推進委員との協働

＜成果と課題＞

・都市公園の整備では、新設する際に地域住民とのワークショップ等を開催し、元気で健康になる公共空間として継続的な整備を進めています。
・ウォーキングに適した環境の整備を進めた結果、市の事業だけでなく、自主的にウォーキングを楽しむ市民や市民団体が増加しています。
・コロナ禍でも各自でできる健康づくりとしてウォーキングが親しまれていますが、ウォーキング大会等、市内で楽しくウォーキングをするきっかけとなるよう、新しい生活様式での実施検討が必要です。

エ　心まるごとリフレッシュ

＜プランの内容・実施した取組＞

プランの構成	プランの概要	期間内に実施した主な取組
生涯学習の支援	市民のニーズに応じた様々な生涯学習関連の講座・教室を開催します。また、図書館では、生涯学習を支えるサービスを提供するとともに、医学、食、運動など健康に関する資料を収集した「朝見武彦文庫」の充実を図ります。	・生涯学習講座の開催 ・図書館資料の充実 ・朝見武彦文庫の充実 ・読書通帳の配布 ・子どもの読書奨励
市民活動の支援	触れ合いや交流に満ちたまちづくりのため、市民活動支援センターなどで、ボランティア団体やＮＰＯなどの活動を支援し、その活動情報を発信します。	・市民活動団体・ＮＰＯ団体の活動支援 ・連合自治会・自治会・町内会の活動支援
温泉活用リフレッシュ事業の推進	尾張あさひ苑を気軽に利用できる保養施設として活用するとともに、湯治や温泉を活用した健康づくりを推進します。	・尾張あさひ苑の改修 ・お出かけウォーキングの開催
地域間交流の推進	災害時応援協定を締結した石川県輪島市や、市保養センター尾張あさひ苑のある長野県阿智村など、他の自治体と連携しながら、自然環境や社会資源を活用した地域間交流を推進します。	・長野県阿智村との交流 ・石川県輪島市との観光交流 ・福島県三春町との交流・滝桜の維摩池植樹 ・その他地域間交流の推進

＜関連する取組＞

・文化活動・スポーツの推進

・文化会館・体育施設の改修

＜成果と課題＞

・当初のプラン「温泉活用型休養・交流」から、改訂版において「心まるごとリフレッシュ」に再編・名称変更され、ソフト事業を中心に進められてきました。

・期間内に実施した主な取組の多くは、経常的な事業として着実に進められています。一方で、新規事業や新しい切り口への見直しが、比較的少ない分野です。

・「プランの構成」に掲げる 4 分野は、総合計画の体系や市の組織において複数の区分にまたがっており、分野間の連携が意識されづらいと考えられます。また、＜関連する取組＞に記載した文化・スポーツ分野も、「心まるごとリフレッシュ」を意識した取組といえます。

・コロナ禍を越えて「こころの健康」を進めていくに当たり、内容の見直しや注力の方向性について、これまでの考え方に捉われずに検討する必要があります。

オ　食育による健康推進

＜プランの内容・実施した取組＞

プランの構成	プランの概要	期間内に実施した主な取組
世代別の食育推進	生涯を通じて食育を推進するため、乳幼児期から高年期まで、各世代に応じた食育講座の開催、歯科健診、生活習慣に対する保健指導などを行います。	・健診時の食育指導 ・保健指導時の食育指導 ・健康づくり食生活改善協議会の料理教室
地域資源を活かした食育推進	楽しみながら食育を学び、体験する機会として、農業まつりや食育関係団体と連携した農政講座などを行います。また、市役所ロビーを活用した地元農産物の販売など、地域の食の資源を紹介したり身近に触れることができる機会を作ります。	・農業まつり ・農政講座 ・地元農産物の出張販売 ・楽農まつり ・市役所ロビー販売
学校教育を通した食育推進	学校教育を通して、朝食を毎日食べることやバランスのとれた食事の大切さなど、児童・生徒に正しい食生活の指導・ＰＲを行います。また、学校、家庭、地域の生産者などが連携し、規則正しい食生活の普及を図るとともに、食物への関心や感謝の気持ちを育みます。	・健康朝食メニューの募集・表彰 ・フードドライブ事業 ・養護教諭による食育
学校給食センターでの食育推進	食育の拠点施設である学校給食センターで、地元の農産物を利用した給食や、副食（おかず）から７大アレルゲンを除去した給食を提供する日を設けます。また、学校給食試食会や施設見学会など、学校や保護者などと連携した様々な食育事業も推進します。	・学校給食センターの稼働 ・地元生産者とのふれあい給食 ・学校給食試食会・施設の見学 ・応募献立の選考 ・食育推進講演会 ・親子料理教室 ・あさぴースマイル給食 ・行事食の実施

＜関連する取組＞

・おいしい紅茶のまちの取組

＜成果と課題＞

・平成 22 年 9 月に、現在の学校給食センターがオープンしました。

・「第 2 次健康あさひ 21 計画」のもと、「第 2 次・第 3 次食育実行プラン」が策定され、主な食育の取組は、企画部、市民生活部、健康福祉部、教育委員会等で横断的に進められています。

・令和 2 年 3 月に公表された「第 2 次健康あさひ 21 計画　中間評価報告書」における評価結果では、「食育への関心度」や「朝食の欠食割合」等において課題が多い状況となっています。

カ　エコ・ガーデンシティ

＜プランの内容・実施した取組＞

プランの構成	プランの概要	期間内に実施した主な取組
自然・緑の拠点づくり	市北部地区に広がる豊かな緑や市内各地に分布するため池などを活用して、市民が気軽に豊かな自然と触れ合うことができる拠点となる公園・緑地を整備します。	・都市公園の新設 ・ため池周辺の整備（維摩池・新池・濁池） ・エドヒガンザクラの保全と整備 ・矢田川自転車道の整備 ・自然環境基礎調査
森林公園の活用	市民が身近に緑に触れ、リフレッシュできる場所として、森林公園でイベントを開催するなど、その有効活用を図ります。	・ウォーキングコースの設定 ・ジョギング大会・ウォーキングイベントの開催 ・第 70 回全国植樹祭の開催
緑を育む活動の推進	家庭緑化を進めるとともに、みどりの少年団など市民による緑の拡大・維持活動を支援し、潤いのある環境づくりを推進します。	・みどりの少年団の活動推進 ・全国植樹祭の理念継承事業 ・自然保護活動（湿地、マメナシ、エドヒガンザクラの保全等）
エコライフの推進	環境マネジメントシステムの推進を図るとともに、各家庭においても家庭版環境ＩＳＯの取組などを通じ、地球環境への負荷の少ないライフスタイルの普及を促進します。	・家庭版環境ＩＳＯの推進 ・ごみ減量と資源化の推進 ・太陽光発電その他の住宅用地球温暖化対策設備の導入促進 ・リサイクル広場の開設 ・環境美化ごみゼロ運動の取組

＜関連する取組＞

・ふれあい農園の整備
・田んぼイルミネーション事業
・自然環境基礎調査の実施

＜成果と課題＞

・第三次総合計画及び四次総において「公園都市」を標榜し、また、環境問題への取組が重要視される中、「エコ・ガーデンシティ」は、当初からリーディングプランに位置付けられてきました。
・緑の基本計画も策定され、本市が力を入れて取り組んできた分野です。
・令和元年に「第 70 回全国植樹祭」が愛知県森林公園で開催されたことは、健康都市のまちづくりにも、非常に大きなインパクトを与えました。
・本市の健康都市度を分析する結果において、ごみ総量の抑制が住民の健康寿命の延伸に効果をもたらすとの指摘があります。まちの健康はもちろん、今後、からだ・こころの健康をより高めるため、影響が大きい取組分野の一つとなっています。
・「脱炭素」や「ＧＸ（グリーントランスフォーメーション）」が時代のキーワードとなる中、健康都市の取組においても、新しい視点を持って取り組むことが求められています。

キ　まちのまるごとリノベーション

＜プランの内容・実施した取組＞

プランの構成	プランの概要	期間内に実施した主な取組
まちの魅力アップ	老朽化した道路、橋梁、公園、上下水道施設などの更新・再生を進めるとともに、土地区画整理事業の推進や駅前広場の整備などにより、都市基盤を向上させます。また、防災、防犯、交通安全などに配慮し、質の高い住環境の整備を推進します。	・土地区画整理事業（旭前城前・北原山） ・立地適正化計画の策定 ・都市公園の新設・維持管理 ・城山公園の拡張整備 ・霞ヶ丘線の整備 ・幹線道路の整備・維持管理 ・狭あい道路の拡幅整備 ・橋梁の耐震補強・維持管理 ・水道管の耐震化 ・新水道ビジョンの策定 ・下水道の整備 ・西部浄化センターの増設 ・東部浄化センターの改築
誰もが気軽に移動できるまちづくり	歩行者や自転車が安全で快適に通行できる道路整備や地域交通の充実など、ユニバーサルデザインを考慮した環境整備を行うことで、誰もが円滑に、また、安全・安心に移動できるまちづくりを推進します。	・市営バス「あさぴ一号」の運行 ・バリアフリー対応バス車両の整備 ・歩道の整備 ・駅通路の補修 ・駅のバリアフリー化（三郷・尾張旭・旭前・印場） ・交通安全施設の整備
ファシリティマネジメントの導入	公共施設の有効活用と適正配置を考え、再編・整理を進めていくため、ファシリティマネジメントの考え方を導入します。	・公共施設等マネジメントの推進 ・公共施設等総合管理計画の策定・進行管理 ・個別施設計画の策定・進行管理 ・旧市民会館の解体 ・文化会館の大規模改修工事
市民がつくるまちづくり	地域の特性を活かしたまちづくりを推進するため、市民による自主的なまちづくりの組織の運営などを支援します。	・三郷駅周辺のまちづくりの推進 ・市民主体の街づくり活動の支援

＜関連する取組＞

・防災・減災等に資する国土強靭化に関連する事業の実施

＜成果と課題＞

・このプランは、改訂版において追加された項目ですが、尾張旭市が長年にわたり継続的に注力してきた分野であり、期間内に実施した取組も多岐にわたります。

・道路・公園・橋梁・上下水道の整備や公共交通の充実、都市基盤整備などは、コロナ禍の影響が比較的少なく、着実に進められています。

・三郷駅周辺のまちづくりや公共インフラの老朽化への対応が長期的な課題となっています。

６　尾張旭市の健康都市づくりについて（寄稿）

本市が進めている健康都市の取組について、外部の視点を踏まえて評価を行うため、東京医科歯科大学大学院の中村桂子教授（健康都市連合事務局長）に寄稿していただきました。

「尾張旭市の健康都市づくりについて」

尾張旭市は、太陽や緑、公園といった自然や環境を活かし、豊かさ、健康をはぐくむ都市としての足跡があります。平成15年には「健康づくりのまちづくり」を市の最重要施策のひとつに位置づけ、世界保健機関（WHO）が提唱する健康都市の基本理念と原則をふまえたまちづくりに取り組み、20年の実績を積んでいます。

1987年に始まったWHOの健康都市プロジェクトは、35年の実績を経て世界に広がり、持続可能な開発目標（ＳＤＧｓ）の達成を、都市を単位に推進するまちづくりとして実績をあげているところです。健康を推進する都市交通や、都市緑化と健康推進など、市民の健康やウェルビーイングを重視するまちづくりの技術やシステムを提案してきました。

本書は、平成16年度から令和4年度までの尾張旭市での進捗状況について検証し、これまでの成果と今後の課題などをとりまとめています。健康都市として特色ある取組が18項目にわたって紹介されています。「まち全体で市民の健康を支える」様子が具体的に説明されています。そこには、多くの人が関わり、地域で活躍する方々の様子が紹介されていることも本書の特徴です。いくつかの事業については、WHOや健康都市連合、国の組織等の表彰を受け、国内外のモデルとなっています。たとえば、「市民総元気まる事業」や「らくらく筋トレ体操」は、高齢者を含む多様な世代を対象に身体活動を活発化する事業のモデルです。自治体が主導するＳＤＧｓ推進の実践例、新型コロナウイルス感染症の流行下における市民とのコミュニケーションの推進例など、健康都市の組織や連携の仕組みを活かしたモデルです。

これらの取組は、健康都市を支える確かな組織を整えた上に展開されています。市民、行政、事業者、その他関係組織が連携する仕組みが構築され、そこで活躍する人材が育ち、市民生活に身近な事業を着実に展開し、持続可能な産業を育成することにつながっているといえます。

また、健康都市の視点に基づく指標による記録と評価を継続して行っています。人々の健康とともに、医療や介護の状況、地域の環境、人々のまちづくりへの参加状況に関わる指標にも注目しています。短期間で変化する数値だけでなく、長い期間を通した指標の変化をふまえながら、総合的な分析が今後も重要です。

健康づくりや高齢者支援、環境活動などの地域の活動に多くの市民の参加が必要です。尾張旭市の市民の活動は全国の他の都市と比べて相対的に活発です。さらに多くの分野の地域活動への市民の参加を推進し持続的に展開していくことで、健康都市づくりがさらに進化することが期待できます。

尾張旭市には、人が自然環境を活かして生活を持続することで生まれる「里地里山」の空間が多数広がり、その空間と都市型生活が共存しています。河川緑地、野鳥や草花、昆虫など豊かな自然や、気軽に自然とふれあえる緑地や公園が整備されています。身近な自然環境の健康はそこに住む人々の健康に必要であり、これらは地球環境の健康が持続的に確保していくことと表裏一体の関係にあります。尾張旭市で育ててきた自然環境と共存しながら市民の健康づくりと健康な都市づくりを推進する活動は、他の都市で同じように展開することは簡単ではありません。気候危機に直面して劣化しつつある地球の健康を少しでもとりもどすことに貢献できる価値ある取組でもあります。

今後の健康都市づくりでは、自然環境や地球環境の健康と、市民の健康を一体的に推進することも重視されます。緑や公園の環境と市民の健康を重視する、尾張旭市ならではの価値を活かした健康都市には、多様な魅力が想起されます。

尾張旭市の健康都市のますますの発展を祈念します。

国立大学法人東京医科歯科大学
大学院医歯学総合研究科
国際保健医療事業開発学分野　教授
医学博士　中　村　桂　子

7　おわりに

本書において、平成16年度から令和4年度までの取組について検証を行ったところ、様々な成果と課題が明らかになりました。

「寝たきりにさせないまちづくり」「外に出かけたくなるまちづくり」「住み続けたくなるまちづくり」の3つの施策の方針をもとに、からだ・こころ・まちの健康づくりを進めてきましたが、コロナ禍を経て、特に「外に出かけたくなるまちづくり（こころの健康）」において、課題が多い状況となっています。

自然環境や地球環境の健康と、市民の健康を一体的に推進することが重視される中で、「少子超高齢化」や「人口減少」といった大きな環境変化に対応するためには、健康都市の取組についても、現状に満足することなく、時代の変化に合わせて、新しいチャレンジをしていくことが求められます。

健康都市プログラム（改訂版）の計画期間が令和5年度をもって満了となるため、今後は、本書で明らかになった課題を的確に捉えて、次期の健康都市プログラムの策定に取り組み、本市の特徴を生かした健康都市のまちづくりを引き続き推進していきます。

参　考　資　料

健康都市連合国際大会などにおける受賞レポートの概要

平成 18 年度　第 2 回健康都市連合国際大会

受賞名	グッドプラクティス賞
授与者	健康都市連合
受賞内容	健康都市プログラム（リーディングプラン）に沿った健康都市づくり
	本市は、2004 年 6 月に健康都市連合への加盟の承認を受けました。そして、2003 年から、本市の重点施策の一つとして位置付け推進してきた「健康づくりのまちづくり」を、市民とともに積極的に展開するため、2004 年 8 月 1 日に健康都市宣言を行うとともに、毎年 4 月 29 日を「尾張旭市　健康の日」と定めました。そして、2005 年 12 月には、本市が目指す健康都市づくりに取り組む背景、目標、推進プログラムの体系などを示した「尾張旭市健康都市プログラム」を策定しました。この中では、健康な市民だけでなく、健康に不安を持っている市民も含めて、すべての市民がいつまでも元気でいられるようなまちを、環境に配慮しながら総合的に実現するという目標を目指すため、「寝たきりにさせないまち」「外に出かけたくなるまち」「住み続けたくなるまち」という 3 つの施策の方針と 9 つの施策で体系付け、さらに健康都市の実現を先導するために、5 つの「リーディングプラン」をとりまとめました。

受賞名	プログレス賞（パフォーマンス賞）
授与者	健康都市連合
受賞内容	健康都市の進捗状況
	過去 3 年間における本市の健康都市の取組内容及び進捗状況について、健康都市連合が規定する様式で回答

平成 19 年度　健康都市アワード 2007

受賞名	健康都市アワード 2007
授与者	健康都市連合
受賞内容	組合施行による土地区画整理事業
	尾張旭市が積極的に進めている土地区画整理事業は、人の健康のみならずまちそのものを健康にするという、WHOが提唱する「健康都市」の理念に見事に合致すると考えます。約 40 年の間に市街化区域の半分以上を土地区画整理事業によって整備している本市において、17 地区中 16 地区で採用している組合施行による土地区画整理事業は、“住民の　住民による　住民のためのまちづくり”を具現化した経験が蓄積されています。組合施行による土地区画整理事業は、住民が主体となった健康都市づくりを積極的に推進するための有効な手段の一つです。

平成20年度　第3回健康都市連合国際大会

受賞名	クリエイティブ・ディベロップメント賞
授与者	健康都市連合
受賞内容	市営バス「あさぴ一号」の取組～人とまちの健康の融合につながる移動手段の確保について～
	本市は、車を持たない、車を運転することができない高齢者の移動の手段を確保するため、市営バス「あさぴ一号」を運行し、「人とまちの健康の融合」を推進しています。 高齢者が「あさぴ一号」を利用して「外に出ることができる」という機会の提供が、実際に「外に出かけたくなる」ことにつながり、外に出かけることで刺激を受け、ますます「外に出かけたく」なり、「寝たきりにさせない」ことにつながっていきます。さらに、「外に出かけ」、「寝たきりにさせない」ことが、結果としてこのまちに楽しく元気に「住み続けたくなる」ことにつながっていきます。また、指定管理者制度を導入してサービスの向上とコストの削減を図るとともに、市民が参加して運行ルートの設定、バスの愛称とデザインを決定するなど、市民が「あさぴ一号」に愛着を持ち続ける仕組みを作りました。 これは、本市が「健康都市プログラム」で掲げている3本柱である、「寝たきりにさせないまちづくり」、「外にでかけたくなるまちづくり」、「住み続けたくなるまちづくり」そのものであり、この相乗効果こそがWHOが提唱する人の健康のみならず、まちそのものを健康にするという理念に合致します。

受賞名	プログレス賞（グッドダイナミック賞）
授与者	健康都市連合
受賞内容	健康都市の進捗状況
	過去3年間における本市の健康都市の取組内容及び進捗状況について、健康都市連合が規定する様式で回答

平成22年度　第4回健康都市連合国際大会

受賞名	クリエイティブ・ディベロップメント賞
授与者	健康都市連合
受賞内容	尾張旭市の健康都市づくりの評価
	WHOは、「健康都市プロジェクト」の推進には、実施してきた事業を振り返り、評価をすることを大切な手段としています。 そこで、本市は「評価すること」を健康都市づくりの重要な要素の一つとして捉え、2005年以降の本市の健康都市づくりが、各種事業、市民意識などに、どのように反映されているかを検証し、まとめを作成しました。 まとめでは、評価の対象を⑴四次総の基本事業、事務事業、⑵各種データ（介護、健康寿命、医療費）、⑶市民意識調査（まちづくりアンケート）とし、健康都市プログラムの3つの施策の方針ごとにまとめ、公表されているデータなどを基に、健康都市に取り組む前後の実績を比較・分析し、ネガティブな情報もあえて取り入れ、グラフなどを使い情報をわかりやすく表記しました。 その結果、「介護」と「健康寿命」において良好な結果が得られたことなどから、5年間に相応の成果をあげていることがわかりました。 また、評価を整理する中で見えてきた課題と今後の対応を健康都市プログラムの3つの施策の方針ごとにまとめ、実際に続行している行動と取られた解決策などを例示しました。

受賞名	プログレス賞（ストロングアクション賞）
授与者	健康都市連合
受賞内容	健康都市の進捗状況
	過去3年間における本市の健康都市の取組内容及び進捗状況について、健康都市連合が規定する様式で回答

平成 24 年度　第 5 回健康都市連合国際大会

受賞名	ベストプラクティス賞
授与者	WHO
受賞内容	環境持続型健康推進都市交通システム～住民の交通手段　市営バス「あさぴー号」～
	本市では、2004 年に民間バス路線が一部撤退したことから、交通アクセスが十分ではない地域が発生しました。そこで、すべての市民が等しく交通アクセスを確保できるように、全市域にアクセスできる公共交通機関として、市営バス「あさぴー号」を導入しました。 「あさぴー号」の運行は、民間事業者が持つノウハウにより上質なサービスを市民に提供するため、指定管理者制度を導入しました。また、要望及び提言を行う市民組織の発足、市営バスの愛称の市民公募など、市民参画の手法を活用しました。「あさぴー号」を活用し、外に出かけやすくなることは、バス利用者同士の輪が広がり、友人及び知人が増えることに繋がります。そして、外に出かけることで寝たきりを予防、「あさぴー号」を市民の視点で見直しを続けることが、「住み続けたくなるまち」づくりとなり、ますます「外に出かけたく」なる連鎖ができます。この連鎖が相乗効果となって、「人とまちの健康の融合」につながり、その結果が、介護関連及び健康寿命のデータに表れました。 「あさぴー号」の運行は、すべての市民に交通サービスを提供できる、環境に優しく、持続可能で健康的な都市交通です。
受賞名	クリエイティブ・ディベロップメント賞
授与者	健康都市連合
受賞内容	健康あさひ 21 計画による生活習慣病予防の取組
	本市は、2005 年 3 月に、市民一人ひとりが主体的に健康づくりに取り組み、家庭、地域、社会全体で支援する環境づくりを推進することを目的に、「健康あさひ 21 計画」を策定しました。本計画では、「生涯を通じた健康づくりの支援」、「健康づくりの推進（一次予防の重視）」、「社会全体で支える健康づくりの推進」、「具体的な計画目標の設定と評価」の 4 つを基本方針として、8 つの主要分野と 4 つのライフステージで構成しました。 その後、2009 年度から 2010 年度にかけて、「健康あさひ 21 計画」の中間見直しを行い、目標値の評価及び今後の課題を明確化し、メタボリックシンドローム、食育など、生活習慣病予防に対する新たな事項を加えることとなりました。また、主要分野は 9 つ、ライフステージを 6 つに分けることで、分野及び世代に合わせ、より細やかな対応ができるようにしました。目標値の評価では、がん検診率の向上、生活習慣病認知度の向上など、一定の成果が表れています。5 年間、「健康あさひ 21 計画」を軸として、元気まる測定の受検、がん検診の受診促進及びその精度管理を実施してきた結果と言えます。

受賞名	クリエイティブ・ディベロップメント賞
授与者	健康都市連合
受賞内容	大規模災害に備えるための災害対策（輪島市との災害協定）
	本市と輪島市は、大規模な災害などの発生により、被害を受けた市が独自では十分な応急措置を行えない場合を想定し、2011 年 3 月 24 日「大規模災害時等における相互応援に関する協定」を締結しました。この協定により、本市と輪島市は、被災時などに災害対策本部の運営に必要な職員を派遣、食糧及び必要な資機材・車両などを被災市側に提供するなどの相互応援を行うこととなりました。 この協定の利点には、本市と輪島市が日本列島の反対側に位置することから、両市が同時に震災を受ける可能性は比較的低く、災害時のリスクを分散できること、輪島市が被災経験のある都市であるため、輪島市の被災経験について、情報を共有し、防災体制を強化できることがあります。 本市と輪島市の相互応援協定は、市民が安全、安心に生活ができるような環境づくりを進め、本市健康都市プログラムの施策の方針「いつまでも住み続けたくなるまち」を実現するための事業と言えます。 防災体制が、他の都市の協力で強化されたことは、防災に対する備えが前進し、市民にとって大きな利益につながるばかりでなく、多分野にわたって民間交流に発展していく可能性が考えられます。
受賞名	プログレス賞（ストロングアクション賞）
授与者	健康都市連合
受賞内容	健康都市の進捗状況
	過去 3 年間における本市の健康都市の取組内容及び進捗状況について、健康都市連合が規定する様式で回答

平成 26 年度　第 6 回健康都市連合国際大会

受賞名	クリエイティブ・ディベロップメント賞
授与者	健康都市連合
受賞内容	東日本大震災から教訓を得た大地震に備えた実践的な防災訓練の実施
	2011 年に発生した東日本大震災では、想定外の地震の規模及び津波などに、自治体、住民、防災関係機関が対応できず、救出救助活動に支障が生じました。本市は、近い将来に大地震の発生が懸念されている地域に位置するため、被災地の経験を基に従来の防災訓練を見直しました。 そこで、2012 年からは、市、市民、防災関係機関が想定外の被災状況に対応できる能力を向上させるため、従来行っていた被災想定の事前公表を行わず、参加者がその場の判断で行動する新たな防災訓練を実施しています。これにより、災害時における市、市民、防災関係機関の対応能力の向上と連携強化を図るとともに、新たな課題発見を行いました。

受賞名	プログレス賞（コンプリヘンシブ・ディベロップメント賞）
授与者	健康都市連合
受賞内容	健康都市の進捗状況
	過去 3 年間における本市の健康都市の取組内容及び進捗状況について、健康都市連合が規定する様式で回答

平成 28 年度　第 7 回健康都市連合国際大会

受賞名	ベストプラクティス賞
授与者	WHO
受賞内容	地域、医療機関、民間企業等と連携した非常時の取組
	尾張旭市では、地域や医療機関、民間企業等と連携し、非常時に市民の生活習慣病の治療や予防、抑制ができる体制を構築しています。 非常時は、地域の医療機関との協定により、医師会は医療救護所に医師を派遣し、歯科医師会は避難者に口腔衛生指導を行い、薬剤師会は店舗にある薬剤の優先供給を行います。 市内公共施設 15 箇所に災害対応型自動販売機を設置し、災害時には市民に飲料水と栄養補助食品が無償で提供されます。 また、栄養補助食品を備蓄し、災害時にも生活習慣病の予防や管理に役立つよう、市民の栄養管理にも配慮して対応するよう努めています。

受賞名	クリエイティブ・ディベロップメント賞
授与者	健康都市連合
受賞内容	本市がこれまで取り組んできた健康都市づくりの振り返りと評価
	尾張旭市は、各部署が連携して総合的に健康都市施策を推進するため、健康都市施策の基本となる「尾張旭市健康都市プログラム」は、市の最上位計画の総合計画に基づき策定しています。そして、健康都市の取組をより効果的に推進するため、2010 年と 2016 年に、これまで取り組んできた健康都市づくりの振り返りと評価を行い、報告書を作成して市ホームページ等で公表しました。 尾張旭市の健康都市施策は総合計画に基づいているため、報告書では、市のほとんどの施策を健康都市の取組として評価することができ、その報告書を、市長を本部長、部長職を本部員とする「尾張旭市健康都市推進本部」で協議したことから、報告書で明らかになった課題について、各部署が連携して取り組むことができます。 2016 年の健康都市の報告書では、尾張旭市の健康都市の取組の中で、成果が出ていない分野が、市民の外出機会の創出であることが判明しました。そのため、新たな市民の外出機会の創出として、市民が外出の足として利用する市営バスの運行拡大と、通常のウォーキングより運動効果が高いといわれるノルディック・ウォークの導入を始めました。 このように、尾張旭市では、健康都市の取組を定期的に評価し、課題を見つけ、その解決に全庁的に取り組むことで、継続的かつ効果的に健康都市の取組を行うことが可能となっています。

受賞名	プログレス賞（エキスパート賞）
授与者	健康都市連合
受賞内容	健康都市の進捗状況
	過去 3 年間における本市の健康都市の取組内容及び進捗状況について、健康都市連合が規定する様式で回答

平成 30 年度　第 8 回健康都市連合国際大会

受賞名	ベストプラクティス賞
授与者	WHO
受賞内容	住民参加によるアクセシブルなまちづくり
	尾張旭市では、誰もが安心して移動できるよう、鉄道駅のバリアフリー化や市営バスの運行を、事業者・国・県との連携のもとで行っており、障がい者を含む利用者や有識者、各種団体の意見を踏まえて取り組んでいます。 土地区画整理事業は、誰もが自由にまちの中を移動できる、アクセシブルな環境の整備を総合的に行うものです。この事業の結果、まち全体のアクセシビリティが大きく向上し、また、住民のまちづくりへの意識や関与の度合いは非常に高くなりました。まちの持続可能性の向上に大きく寄与しています。 様々な主体と行政が力を合わせてアクセシブルなまちづくりを進めるため、総合計画・健康都市プログラムに、まちづくりの基本的な考え方や数値目標、各主体の役割分担を定めています。数値目標については、その推移について点検・議論を行い、事業の見直しや資源配分を行う仕組みが整っています。 アクセシブルなまちづくりを包含する健康都市プログラムの取組は、ＳＤＧｓの目標達成にも寄与します。

受賞名	クリエイティブ・ディベロップメント賞
授与者	健康都市連合
受賞内容	尾張旭市の健康都市の取組とＳＤＧｓ
	健康都市とＳＤＧｓの関連について、2 つの視点で整理し、今後の取組について考察しました。 ＜①市の計画とＳＤＧｓ＞市の最上位計画である「総合計画」の「将来の都市像」には、「健康都市」の理念が反映されています。総合計画では、取組の分野を体系化し、めざす姿と数値目標を設定しています。また、「健康都市プログラム」は、総合計画と関連付けて策定・推進しているため、市の取組を横断的に「健康都市」の取組としても評価できます。これらの計画は、ＳＤＧｓの持つ特徴と共通点が多く、また、ＳＤＧｓの目標と幅広く関連します。 ＜②具体的な事業とＳＤＧｓ＞10 年間取り組んできた「あさひ健康マイスター事業」について、ＳＤＧｓとの関連を考察し、事業の拡大を行うことにより、ＳＤＧｓの目標との関連がより多くなることが明らかになりました。 ＜今後の取組＞市の計画（マクロの視点）も、具体的な事業（ミクロの視点）も、ＳＤＧｓの視点を持つことで、より効果的に行うことができます。 尾張旭市は、様々な主体と協働で健康都市の取組を進めることでＳＤＧｓの目標達成につなげ、世界基準の健康都市を目指していきます。

受賞名	プログレス賞（ストロングアクション賞）
授与者	健康都市連合
受賞内容	健康都市の進捗状況
	過去 3 年間における本市の健康都市の取組内容及び進捗状況について、健康都市連合が規定する様式で回答

令和２年度　第９回健康寿命をのばそう！アワード（生活習慣病予防分野・自治体部門）

受賞名	第９回健康寿命をのばそう！アワード（生活習慣病予防分野・自治体部門） スポーツ庁長官優秀賞
授与者	スポーツ庁長官
受賞内容	寝たきりにさせないまちづくりをめざし、健康づくり推進員とともに取り組む
	尾張旭市は、「健康都市宣言」を行い、人とまちの健康づくりを進めており、全国的にみても健康寿命が高い水準で推移しています。 尾張旭市健康づくり推進員（以下「推進員」）は、平成 17 年度よりヘルスプロモーションで提唱している「地域活動の強化」のため、地域での健康づくりのリーダーとして市が定期的に養成しており、現在 29 名で活動しています。 推進員は、市が主催する養成講座を受講後、自主的に学習するサークル活動や市が主催する勉強会等で日々健康づくりに関する知識を深めています。 活動は、「ウォーキング」「筋力トレーニング」「笑いと健康」の３つの柱に従い実施しています。その中の一つ「筋力トレーニング（名称：らくらく筋トレ体操）（以下「筋トレ」）」自主グループを支援する活動があり、支援開始から、10 年以上が経過しています。現在市内には、64 グループがあり、約 1,400 人が筋トレ活動に参加しています。今回推進員自ら、「支援している効果の検証をしたい」という声があり、大学と共同研究で分析を実施しました。 分析の結果、「推進員が支援に関わっているグループ」と「推進員が支援に関わっていないグループ」の２群に分類すると、10m歩行速度・最大脚伸展力について有意差が認められました。これによって、推進員が筋トレ自主グループに関わり、支援することで参加者の運動機能が向上していることが明らかとなりました。 ＜成果＞ 推進員が、効果的に筋トレ自主グループを支援しており、市民の健康寿命延伸に果たしている役割が明らかとなりました。さらに今回の分析結果について推進員がグループディスカッションを実施したり、自主的な勉強会を開催するなど意欲向上の波及効果もありました。市としてもこの結果から、推進員の質を維持向上するための研修等のサポートを充実させていきたいと考えています。

令和３年度　第９回健康都市連合国際大会

受賞名	クリエイティブ・ディベロップメント賞（最優秀賞）
授与者	健康都市連合
受賞内容	緑と元気あふれる　住みよいまち　尾張旭
	コロナ禍で、密を避け行動を抑制することが求められる今、緑が持つ癒しや、ウォーキングによる健康維持の重要性は更に増しています。 尾張旭市は 1970 年に誕生し、大都市の名古屋市に隣接したコンパクトな住宅都市として発展してきました（1970 年 33,634 人→2020 年 84,135 人※2.5 倍）。限られた市域（21.03 ㎢）を計画的に開発するために都市基盤整備に注力するとともに、いち早く都市が持つ緑の重要性を認識し、市民憲章、市の将来の都市像にも緑に係る文言を入れ、都市における開発と緑の調和がとれたまちづくりを進めてきました。 2005 年策定の健康都市プログラムで「まるごとウォーキングのまち」を掲げたほか、2010 年には、尾張旭市緑の基本計画を策定し、歩きやすさに「魅力」を加えた道の整備や、コミュニティ等の育成、歩く機会の創出など、ハード、ソフト両面の取組を市民、事業者、団体等と協働で持続的に実施しています。 2019 年には、国の国土緑化運動の中心的な行事である「全国植樹祭」を誘致、開催し、森林に対する愛情を培いました。そのような中、2020 年からのＣＯＶＩＤ－19 の感染拡大により、特にソフト事業に多大な影響を受けました。 「都市開発と緑」、「ウォーキング」をキーワードにしながら、「ＣＯＶＩＤ－19 禍」での応用例について報告します。 ハード面の取組は予算的に難しいかもしれませんが、市民団体との協働に係るソフト事業の取組や応用例は、持続性、再現性、拡張性があると考えます。

受賞名	クリエイティブ・ディベロップメント賞（優秀賞）
授与者	健康都市連合
受賞内容	新型コロナワクチンの接種におけるリスクコミュニケーション
	日本では、過去にあった予防接種の中止事例の影響などにより、ワクチン接種に心理的な抵抗を持つ人が多く、どのように新型コロナワクチンの接種が進むかは未知数でした。本稿では、尾張旭市の新型コロナワクチン接種に当たり重要な役割を果たしているリスクコミュニケーションの手法を報告します。 日本政府は、2021 年 7 月末までに 65 歳以上の高齢者の接種を完了する目標を掲げました。尾張旭市では、7 月末に 65 歳以上の高齢者の 85.5%（約 2 万人）の 2 回接種を進めることができ、いち早く若年層への接種に着手しました。原稿執筆時点（8 月）では、10 月末までに 12 歳以上の対象者の 8 割（約 6 万人）の 2 回接種完了を目標として進めています。 リスクコミュニケーションは、迅速な接種の進捗に大きな役割を果たすことを意識し、次のような主体と様々なコミュニケーションを図っています。

	1. 行政機関内部のコミュニケーション 2. 市議会とのコミュニケーション 3. 他自治体・県・国とのコミュニケーション 4. 医療関係者とのコミュニケーション 5. 市民・事業者・マスコミとのコミュニケーション 共通するポイントとして、①迅速かつ綿密な情報共有、②リーダーシップ、③透明性の確保、④幅広い視点の 4 点があります。 接種を進めるにあたっては、トラブルや困難が多くありますが、適切なコミュニケーションにより、接種が進むスピードや、住民の満足度に大きな差が生まれています。コミュニケーションには、必ずしも大きなコストは不要であり、他都市でも、また、他のリスク事案でも、参考にすることができます。

受賞名	クリエイティブ・ディベロップメント賞（優秀賞）
授与者	健康都市連合
受賞内容	ＳＤＧｓの認知度向上と個々の行動の推進に向けた多部門連携の創造的な取組
	尾張旭市は、ＳＤＧｓの視点を持つことで世界基準の健康都市を目指しています。2018 年のアンケートでは、市民も職員も過半数がＳＤＧｓを知らない状況であったため、認知度向上が最重要課題と考え、多様な主体と連携し、主に二つのアプローチで様々な事業に取り組んでいます。 ①大規模なイベントでの啓発 ・2019 年度から多様な主体が連携して「健康都市」を発信する「あさひ健康フェスタ」を、ＳＤＧｓを共通テーマとして実施。2019 年度は、延べ約 6,300 人に、運動しながら健康とＳＤＧｓを身近に考える機会を提供 ②継続的な周知 ・市民：市広報等による周知、商業施設での啓発、あさひ健康マイスター手帳による各種事業とＳＤＧｓの周知 ・職員：職員研修・勉強会の実施（企業・国連地域開発センターと連携） 2021 年には、ＳＤＧｓを知らない者は、約 1 割となるなど、認知度は着実に向上しています。 大規模なイベントの代わりに特設ウェブサイトを設けるなどＣＯＶＩＤ－19 にも対応した事業を実施し、今後は、ＳＤＧｓの視点を取り入れた健康都市プログラムの改訂準備をすすめ、よりよい持続可能な健康づくりをしていきます。

受賞名	プログレス賞（ストロングアクション賞）
授与者	健康都市連合
受賞内容	健康都市の進捗状況
	過去 3 年間における本市の健康都市の取組内容及び進捗状況について、健康都市連合が規定する様式で回答

視察受入実績（平成 19 年度～令和 4 年度）

年度	No.	視察団体等	
H19	1	広島県	廿日市市議会
	2	京都府	与謝野町議会
	3	群馬県	渋川市議会
	4	東京都	大田区議会
	5	群馬県	前橋市議会
	6	静岡県	駿東市町長会（沼津市、御殿場市、裾野市、清水町、長泉町、小山町）
	7	青森県	十和田市議会
H20	1	タイ	バンコク視察団
	2	神奈川県	大和市
	3	福岡県	前原市
	4	愛知県	アジア保健研修所（AHI）
	5	千葉県	流山市議会
	6	埼玉県	坂部市議会
	7	韓国	順天市
	8	新潟県	上越市議会
	9	福岡県	太宰府市議会
	10	北海道	苫小牧市議会
	11	富山県	氷見市市民団体
	12	北海道	恵庭市議会
	13	岐阜県	恵那市議会
	14	フィンランド	オウル大学教員
H21	1	京都府	八幡市議会
	2	京都府	京田辺市議会
	3	栃木県	日光市議会
	4	愛知県	アジア保健研修所（AHI）
	5	兵庫県	洲本市議会
	6	岐阜県	恵那市議会
	7	京都府	向日市議会
H22	1	鹿児島県	奄美市議会
	2	愛知県	アジア保健研修所（AHI）
	3	神奈川県	伊勢原市議会
	4	広島県	安芸郡府中町議会
	5	三重県	亀山市
	6	愛知県	北名古屋市
	7	愛知県	椙山女学園大学学生
	8	大阪府	大阪市立大学大学院学生
	9	愛知県	名城大学学生
H23	1	岐阜県	御嵩町
	2	静岡県	浜松市
	3	東京都	㈲コーポレイトデザイン研究所
	4	愛知県	大府市
	5	埼玉県	朝霞市議会
	6	愛知県	アジア保健研修所（AHI）
	7	静岡県	藤枝市
	8	静岡県	焼津市
	9	沖縄県	北中城村商工会
	10	台湾	高雄市
	11	岐阜県	御嵩町
H24	1	愛知県	アジア保健研修所（AHI）
	2	千葉県	千葉大学大学院生
	3	山形県	寒河江市議会
	4	佐賀県	鳥栖市議会
	5	愛知県	美浜町
	6	千葉県	君津市議会
	7	愛知県	津島市
H25	1	愛知県	江南短期大学客員研究員
	2	岐阜県	美濃加茂市
	3	愛知県	田原市
	4	埼玉県	上尾市議会
	5	愛知県	西尾市
	6	イギリス	南レイクランド
	7	山形県	酒田市議会
	8	愛知県	西部地域公明党市議会
	9	愛知県	アジア保健研修所（AHI）
	10	愛媛県	新居浜市
	11	東京都	練馬区議会

年度	No.	視察団体等	
H25	12	埼玉県	行田市議会
	13	愛知県	刈谷市
	14	山梨県	県内市町村（甲府市等）
	15	京都府	木津川市議会
	16	群馬県	館林市議会
	17	東京都	清瀬市議会
	18	千葉県	我孫子市
	19	千葉県	香取市議会
	20	埼玉県	上尾市
	21	愛知県	津島市
H26	1	愛知県	長久手市議会
	2	愛知県	大府市
	3	京都府	八幡市議会
	4	静岡県	函南町議会
	5	千葉県	野田市議会
	6	栃木県	栃木市議会
	7	神奈川県	葉山町議会
	8	北海道	旭川市議会
	9	台湾	育達技科大学
	10	愛知県	名古屋産業大学
	11	愛知県	アジア保健研修所（AHI）
	12	神奈川県	鎌倉市議会
	13	愛知県	豊明市
	14	佐賀県	鳥栖市議会
	15	栃木県	宇都宮市議会
	16	北海道	滝川市議会
	17	三重県	亀山市議会・自治会
	18	愛知県	碧南市
	19	北海道	上川郡鷹栖町
H27	1	愛知県	アジア保健研修所（AHI）
	2	東京都	多摩市議会
	3	愛知県	土地区画整理尾張地区研究会
	4	三重県	朝日町議会
	5	香川県	坂出市議会
	6	愛知県	中日病院健診センター
	7	大阪府	関西大学教授
	8	島根県	安来市議会
	9	東京都	健康都市活動支援機構
	10	福岡県	久留米市長寿支援課
	11	韓国	健康都市連合韓国支部
	12	愛知県	名古屋産業大学教授
H28	1	長野県	東御市議会
	2	沖縄県	名護市議会
	3	神奈川県	葉山町議会
	4	滋賀県	田中ビジネスサポート㈱
	5	愛知県	アジア保健研修所（AHI）
	6	東京都	立川市議会
	7	北海道	紋別市議会
	8	岐阜県	瑞浪市地域包括支援センター
	9	兵庫県	高砂市議会
H29	1	鳥取県	倉吉市教育福祉常任委員会
	2	台湾	台湾育達科技大学関係者
	3	愛知県	アジア保健研修所（AHI）
	4	ASEAN諸国	NGO健康都市活動支援機構（フィリピン5、ベトナム1、カンボジア3、シンガポール1、マレーシア2）
H30	1	タイ	バンコク都庁（BMA）・国際連合地域開発センター（UNCRD）
	2	マレーシア	南クチン市・国際連合地域開発センター（UNCRD）
	3	愛知県	アジア保健研修所（AHI）
	4	山形県	寒河江市議会
	5	静岡県	御前崎市
	6	東京都	文京区議会
	7	東京都	中央区議会
R1	1	JICA	
	2	埼玉県	秩父市議会文教福祉委員会
	3	千葉県	君津市議会教育福祉常任委員会
R4	1	京都府	長岡京市議会文教厚生常任委員会
	2	栃木県	日光市議会民生教育常任委員会

※件数は、30 ページのとおり

出張講義実績（平成 20 年度～令和 4 年度）

年度	No.	出講先	出講先
H20	1	千葉県	健康都市連合（市川市）
H22	1	韓国	健康都市連合（ソウル特別市江南区）
H23	1	愛知県	名古屋商科大学
	2	愛知県	東海公衆衛生学会
	3	静岡県	焼津市
	4	大阪府	大阪市
	5	千葉県	市町村職員中央研修所
	6	インド	第6回アジア地域ＥＳＴフォーラム
	7	愛知県	愛知県公衆衛生研究会
	8	沖縄県	北中城村商工会
	9	沖縄県	北中城村
	10	東京都	厚生労働省
H24	1	静岡県	藤枝市
	2	愛知県	名古屋商科大学
	3	三重県	東海公衆衛生学会
	4	東京都	厚生労働省
	5	オーストラリア	健康都市連合（ブリスベン市）
	6	山口県	日本公衆衛生学会
	7	宮城県	宮城県
	8	愛知県	尾張旭ロータリークラブ
	9	愛知県	国保連合会
	10	愛知県	愛知県
	11	愛知県	瀬戸保健所
H25	1	静岡県	焼津市
	2	愛知県	名古屋商科大学

年度	No.	出講先	出講先
H25	3	愛知県	田原市
	4	静岡県	東海公衆衛生学会
	5	愛知県	津島市
	6	東京都	日本乳がん学会
	7	愛知県	名古屋商科大学
	8	愛知県	愛知県公衆衛生研究会
H26	1	愛知県	大塚製薬
	2	中国	健康都市連合（香港）
H28	1	愛知県	名古屋商科大学
	2	東京都	理化学研究所
	3	韓国	健康都市連合（原州市）
	4	愛知県	瀬戸旭労働基準協会
	5	愛知県	㈱ファイザー
	6	愛知県	名古屋産業大学
H29	1	愛知県	愛知県都市国民年金協議会
	2	カンボジア	健康都市連合（プノンペン市）
	3	愛知県	名古屋商科大学
	4	愛知県	愛知県看護協会保健師職能集会
H30	1	東京都	早稲田大学マニフェスト研究所
	2	マレーシア	健康都市連合（クチン市）
	3	愛知県	愛知県在宅保健師会
R2	1	韓国	健康都市連合（江東区・オンライン）
R3	1	中華民国	中華民国社区営造学会（台湾・オンライン）
	2	中国	健康都市連合（香港・オンライン）
R4	1	愛知県	名古屋産業大学

※件数は、30 ページのとおり

健康都市　尾張旭の実現に向けて

～これまでの取組のまとめ～

令和５年３月

- 発行　尾張旭市
- 編集　企画部秘書課健康都市推進室

〒488-8666

愛知県尾張旭市東大道町原田 2600 番地１

電話　0561-76-8101（直通）

0561-53-2111（代表）

http://www.city.owariasahi.lg.jp/